２０１７（平成２９）年度
事業報告

社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園

目次

01 法人 1
02 垂穂寮 13
03 やまばと希望寮 16
04 わかば（もくれん含む） 18
05 みぎわ 20
06 ケアセンターさざんか 22
07 ケアセンター野ばら 24
08 ケアセンターかたくりの花 26
09 ワークセンターカサブランカ 28
10 ワークセンターコスモス 30
11 ワークセンターなのはな 32
12 ワークセンターあさがお 35
13 ワークセンター希望の家（ふれあい含む） 37
14 ワークセンターやまばと 39
15 ワークセンターさくら 41
16 ケアセンターマーガレット 43
17 就労移行センターレインボー 45
18 レタスクラブ 47
19 生活支援センターやまばと 49
20 聖ルカホーム（ショートステイ含む） 51
21 グレイス（ショートステイ含む） 53
22 相寿園 55
23 ぎんもくせい 57
24 デイサービスセンター真菜 59
25 デイサービスセンターすずらん 61
26 ライフサポートさふらん 63
27 居宅介護支援事業所シャローム 65
28 牧之原市地域包括支援センターオリーブ 67
29 コミュニティセンターぶどうの木 69
30 介護職員初任者研修 71
31 付属明細書 72

2017（平成 29）年度 法人全体の 事業報告

社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園

＜総括＞

ここ数年、ガバナンスの確立、コンプライアンスの順守、キャリアパス制度の構築といった言葉が飛び交い、2017 年度もそれらを整備するためにかなりのエネルギーを注いた。が、こういったことを整えると、自動的に福祉の内容が豊かになるわけではないことを承知しておかねばならない。秩序ある組織をつくることも大切だが、なによりも大事なのは、ご利用者や職員、地域の人たち、ひとりひとりが、「自分は大切にされている」と実感し、笑顔になり、思いやりや信頼、希望を抱いて生きるようになることである。なかなか理想通りにはいかないけれども、大事な目標を忘れず、それが実現するよう次年度につなげていきたい。

１．2017 年度の大きな出来事

（1）4 月 1 日から、改正社会福祉法が施行され、6 月 17 日に第 1 回評議員会が開催され、新しい役員を選任した。また、同じ日に、定時評議員会で選任された新理事による 2017 年度第 2 回理事会が、両監事出席のもと、開催された。、

（2）4 月から「総合事業」を 4 施設（オリーブ、ぶどうの木、、真菜、さふらん）で開始した。利用者数や仕事量は増えたが、単価が低く、収入は僅かしか増えなかった。ちなみに総合事業は、市町村が基準や単価を定めるもので、高齢者の機能の低下を防ぐことが目的。①介護予防・生活支援サービス事業と、②一般介護事業とがあり、①は、要支援 1 又は 2 の認定を受けた人、或いは、基本チェックリストにより機能低下がみられる人が対象。②は、65 歳以上の全ての人が対象。総合事業は、2025 年整備予定の「地域包括ケアシステム」の基盤になると言われる。

（3）管理者、パート職員の報酬を、4 月から相当額、アップさせた。

（4）高齢者関係施設の人手不足により、グレイスのショートステイ事業を休業にした。

（5）インド人実習生Ｖ・ディルさんが当法人で 2 週間実習。真摯な姿勢にこちらが学ばされた。

（6）「ケアセンターさざんか」と「ワークセンターあさがお」の建設計画を検討。「あさがお」は、適切な土地を確保でき、、建設計画が順調に進展したが、「さざんか」は今後も継続審議。

（7）レタスクラブの活動が県社協発行の「地域に対する公益的取り組み」事例集に紹介された。

（8）今年度末をもって、就労移行支援センター「レインボー」の活動を終結させた。人事面や経営面で不安定な要素が多く、他の事業所でも就労支援できると判断し、この結論に至った。

（9）ワークセンターなのはなで火災発生。損害損失は 1 億 4 千万円余。安全管理面の弱さを痛感。

(10) キャリアパス制度、並びに、それに伴う研修体制を構築し、2018 年度 4 月から実施とした。

(11) 地域密着型特別養護老人ホーム「グレイス」の借入金残高、７８，７８８，３３１円を、年度末に一括繰り上げ返済した。

2. 2017 年度の歩みについて評価

（1）Ⅳ－４－（４）に記したような求人活動を行ったが、「人手不足」は解消できなかった。
人手不足というのは、主として入所施設に関連した課題で、配置基準はクリアしているが、かつての望ましい職員数からは激減した状況、ご利用者（の障害の重さや加齢に伴う機能低下等）に適切に対応していくためにはもっと多くの人数が必要という意味で、2017 年度も、職員たちの労務軽減のため職員確保に努めたが、望ましい結果にはならなかった。求人難は今後も続くと予想されるので、これまで以上に求人活動に努めると同時に、「ここで働いてみたい」という職場にする必要がある。魅力的な職場とは、職員の人間関係がよい、ご利用者への対応が良く、仕事に生きがいや感動を覚える、専門的勉強もできる、労務環境が良い、といったことで、労務環境をよくするには、中・高年齢者の活用や、外国人技能実習生の受入れやＩＴ化、日課の工夫等々があり、その取組みは次年度に持ち越されたと言える。

（2）安全管理面で細心の注意を払うべきこと。
年度末に「ワークセンターなのはな」で火災が発生。幸い、けが人はなく、火災保険でほぼ全て保障される見通しとなったが、今後は、全事業所に対して、安全管理の徹底を促してい

く必要がある。（火災の原因については、放火・失火の見解があり特定されていない。）
（3）2017 年度の決算は、人件費の増に比べて、収入が予想ほど伸びない結果になり、全体としてはあまり芳しくない。中身を精査して、善処していかねばならない。
（4）2017 年度、当法人でもキャリアパス制度の構築や、必要な諸規定の作成等を行った。年々、専門化、組織化、管理化が進められており、この傾向は、「人を大切にする」「ともに生きる」を掲げる私たちの歩みにとって本当に有益なのだろうかと思ったりもする。が、今は、プラスに受けとめ、人が生かされるように、諸規定や諸制度を有意義に活用していきたい。

Ⅰ．基本理念と行動指針、目標

基本理念「ともに生きる」と「わたしたちの願い」、「行動指針」を文字化し、各事業の目立つところに掲示した。また、全体研修や、オリエンテーション、「理念を学ぶ会」等において、その意味が理解されるよう、講義を通して浸透を図った。

Ⅱ．2017 年度牧ノ原やまばと学園の事業概要

1．本年度実施事業、及び、収支状況・財産状況、職員状況、寄付金状況

（1） 実施事業：事業計画Ⅱ－1 の事業を、全て実施した。資料Ⅱ－1 を参照のこと。

（2）収支状況　（事業活動計算書より）　（単位　千円）

	2016 年度	2017 年度	（当年－前年）増減
サービス活動収益	2,152,745	2,125,583	△27,162
サービス活動費用	1,989,518	2,077,273	87,754
サービス活動増減差額	163,226	48,309	△114,917
サービス活動外収益	9,337	17,480	8,143
サービス活動外費用	9,784	18,244	8,460
サービス活動外増減差額	△447	△763	△316
経常増減差額	162,779	47,545	△115,233
特別収益	10,602	2,062	△8,539
特別費用	10,310	150,267	139,956
特別増減差額	291	△148,204	△148,496
当期活動増減差額	163,071	△100,658	△263,730
前期繰越活動増減差額	1,512,754	1,623,270	110,516
当期末繰越活動増減差額	1,675,825	1,522,611	△153,213
次期繰越活動増減差額	1,623,270	1,507,471	△115,798

特別増減差額 148,204 千円は、大半が「ワークセンターなのはな」火災による損害損失。

（3）資産・負債状況　（単位：千円）

	2015 年度末	2016 年度末	2017 年度末	（当年－前年）増減
流動資産	942,617	1,003,595	1,042,751	39,156
固定資産	3,511,867	3,523,846	3,356,503	△167,342
資産合計	4,454,485	4,527,441	4,399,255	△128,186
流動負債	252,629	245,312	266,978	21,665
固定負債	676,612	643,895	646,599	2,704
負債合計	929,242	889,208	913,577	24,369
純財産	3,525,242	3,638,233	3,485,677	△152,556

（4）2017 年度末の職員状況　：　総人数は 475 名。　内訳は、下表のとおり。

	正規職員	準 職	嘱 託	パート	パート利用者	非正規・計	全職員
男性　(人数)	69	4	9	47	12	72	141 人
女性　(人数)	120	16	5	192	1	214	334 人
平均年齢	45.9	46.7	69.5	56.0	47.3	54.9	53.1 歳
平均勤続数	10.36	5.95	11.11	5.97	3.87	6.7	7.5 年

(注) パート利用者とは、就労継続 A 型事業所のメンバー。法人の職員であり、ご利用者でもある。

（5）寄付金状況

法人本部に寄せられた寄付金総額は、17,066,923 円 (うち、誌代 2,364,259 円含む)、各事業所への寄付金総額は、6,743,494 円でした。感謝してご報告します。

2．組 織 体 制 ： 当初の計画通り。資料Ⅱ－２を参照。

3．役員・評議員名簿　：

5 月 27 日第 1 回理事会を開催したが、6 月 17 日の定時評議員会により新役員が選任され、3 人の理事が新しく交代した。新役員と評議員の名簿は、資料Ⅱ－３－ｂを参照。

4．評議員会、理事会の開催状況：

定時評議員会を 1 回、理事会を計 7 回開催した。定款に定めたとおり、理事会において、理事長による職務執行状況報告が、年 4 回以上なされた。資料 1 を参照のこと。

5．2017 年度に実施した研修プロブラム：資料 2 を参照のこと。

Ⅲ．重点目標：その実施状況については、下記Ⅳ.「重点目標に関連した活動計画」に記載。

Ⅳ．重点目標に関連した活動計画

1． 理念の浸透：前記の、「Ⅰ．基本理念と行動指針、目標」を参照のこと。

（1） 理事長メッセージは伝えたが、管理者同士が話し合う機会はなかった。
（2） 研修での理念の学びは具体例を入れて話した。参加者同士の話合いは少なかった。
（3） 「聖書と福祉の理念を学ぶ会」は、予定通り年 4 回実施した。
（4） メールによるメッセージは、最初は週 1 回だったが、多忙のため月 1 回になった。
（5） 懇話会は年に 2 回開催。施設長たちの実践計画書を発表してもらうことになった。どの事業所でも、サービス提供指針を学んでいることが明らかになった。

2. サービスの質の向上

（1）サービス提供指針に基づくケアの実践：
理念を実践する指針の一つとして「サービス提供指針」が作成されていることを理解し、事業所では、内容の読み合わせ等を継続的に行い、その内容の周知に努めた。第三者評価を受審した事業所はなかったが、関心を抱く施設は確実に増えてきた。

（2）全体虐待防止委員会を年に 2 回開催。垂穂寮からは、「月 1 回の第三者も交えた虐待防止委員会の開催」や「自己チェックシート」実施の報告があり、各事業所からも虐待防止に関する近況報告がなされ、お互いに良い刺激を受けた。

（3）コミュニケーション困難なご利用者については、専門家の助言も仰ぎながら、なお試行錯誤の状況が続いている。

3．地域における公益的な取組の推進

（1）生活支援センターが立案した「地域移行・地域定着」の活動は、着手できなかった。
（2）地域のトラブルを単発的に解決したが、福祉ニーズとして法人に挙がってくることはなかった。各市町が問題把握に努め、施設関係者は協力している状況である
（3）「地域における公益的取組」の定義は、① 社会福祉事業又は公益事業を行うに当たって提供される福祉サービス、② 対象者は日常生活又は社会生活上の支援を必要とする者、③ 無料又は低額な料金で提供、の三要件が全て満たされることだったが、その後やや緩和された。当法人が実施した取組は、「資料３」に記載した通り。
（4）法人連絡会は、社協が主催しているが、1回開催されただけで、中断している。
（5）牧之原市、島田市、吉田町が担当する「障がい者計画、障がい福祉計画、介護保険策定等々」の会議に、当法人の関係者も参加し、内容充実のため協力した。

４．良質な福祉人材の確保と育成

（1）適性かどうかを知るため、すぐには正職にせず、準職として採用する場合もあった。
（2）キャリアパス制度の中に、勤務年数に伴い期待される役割を明記することができた。
（3）「助け合う職場」となるための評価の仕組みは、確立できないままとなった。
（4）職員確保のために有効だったのは、介護職員初任者研修の開催であり、2017 年度も、実施した。一方、あまり効果がなかったこととして、ロゴマークの普及は中止したが、①知人への聞き込み、②就職説明会への参加、③広告掲載、④フェイスブック、⑤ナビによる求人活動、、⑥進学奨学金制度、⑦ハローワークの活用は、引き続き行った。また、就職者たちの言葉を通して、「ここで働きたい」という印象を与えることが、「良い人材確保」のための一番の近道だということも判明した。
（5）法人内外の研修の案内をし、参加を促したが、事業所によってかなり差があった。
（6）聖ルカホームは、産業医の配置が義務付けられたが、全事業所の職員のメンタルヘルスのために、相談員を設置し、周知させた。
（7）外国人技能実習生について関係者から詳しく学んだが、「決断は慎重に」という気持が強く、その後、あまり進展していない。
（8）ロボットの導入については、福祉器具のことが優先され、学ぶ機会がなかった。
（9）その他：「いのちのことば」社から、雑誌「百万人の福音」の漫画に、当法人のことを載せたいとの申し出があり人材確保を願って取材に応じた。5～6 月号に連載された。

５．マネジメント力の向上

（1）改正社会福祉法に基づく組織体制を構築し「内部管理体制の基本方針」を策定した。
（2）コンプライアンスの徹底：関係法令等を遵守して、経営を行った。
（3）改善すべき課題として挙げたことについて
①購買管理の統一、②職員情報の正確な把握と適切な管理、③新旧諸規則の整合性のチェック、等を挙げたが、①は長所・短所があり現状のままとなった。②は、タレントマネジメントシステムという IT 機器があると聞いたので今後検討していきたい。③は、今後も続く課題である。
（4）県の補助金を頂いて当法人が実施した「会計監査法人による試験的監査」によると、次のことが、いずれも「長期的な課題」として提示された。

① ガバナンスについて：内部監査担当者や内部監査部門が不在である。
② コンプライスに関して、定期的な職員ローテーションの実施が必要である。
③ 業務手順書等の整備：個人レベルでなく、法人レベルで標準化する必要あり
④ 決算・会計業務体制：経理知識を有する担当者の増員を検討する必要がある。

６．「やまばとリニューアルプラン」より受け継いだ計画

変革テーマ	2017 年度実施状況
理念・ビジョンの浸透	かなり浸透されたが、創立 50 周年と結びつけた仕組みは、未検討のまま。
リーダーシップ教育	若手がリーダーになることはいくつかはあったが、なお不十分なままである。
支援内容の充実	新しいサービス提供指針を作成し、浸透と実践に努めた。
仕事の見える化	個人レベルではかなり具体化したが、法人レベルの標準化は未完成。
マネジメント教育	数値管理や経営計画。　まだ継続中で、研修も不十分になった。
報酬・評価制度改革	キャリアアップ制度と関連して、報酬・評価制度を作成した。実施は次期に。
アイデア提案制度	後半は応募数が減少し、7 月と 9 月のみ選考。受賞した案は、昼休みＰＣ電源を切る。能率よい配膳法。リフレッシュ休暇。ＬＥＤ電球への変更。
内部統制強化	法改正に対応した規程等の整備は終了。
会議体の再整備	2017 年度は本部協議会のメンバー６名で、キャリアパス制度の構築や評価・報酬制度等を策定した。次年度からの新体制（部長と部門会の創設/事務長と主任の会合）も整備した。
施設整備計画	事業報告書の、総括－１－（６）に記載した通り。
地域包括ケアシステムへの継続的な参加	今後は、総合事業へ参入した事業所や、包括支援センター、生活支援センター等から情報を聴き、法人として何ができるか、検討していきたい。

Ⅴ．その他の主要な活動計画

１．総合事業の開始：事業報告書＜総括＞－１－（２）に記載した通りである。
２．「全体虐待防止委員会」の開催：事業報告書 Ⅳ－２－（２）に記載した通りである。
３．「ワークセンターなのはな」の火災：事業報告書 総括－１－（９）に記した通り。
４．「ケアセンターマーガレット」のスタッフたち：兼務から解放され、落ち着いた支援ができた。準職員の一人（女性）は、垂穂寮の正規職員として採用され、転出した。
５．高齢化した障碍者に関する定期的な会合：他の課題が優先され、開かれなかった
６．オリーブ園に関する話し合い：２回ほど開催されたが、定期的なものではなかった。
７．「ワイワイ話そう会」：毎月１回、会場は聖ルカホームで実施され、喜ばれている。
８．職員の労務環境アップに関する計画

（１）一般事業主行動計画（①有給休暇の消化、②育児休暇、③ノー残業デイ）の具体化

事業所によってかなり違いがあったが、①と③については幾らか改善された。
この行動計画については、一定の目標基準を満たした場合、厚労省が認定すると、「次世代認定マーク（愛称：くるみんマーク）」が与えられ、その事業所は、くるみんマークを使って、子育てサポートの優良企業であることを内外にアピールできる。当法人は、認定基準をほぼクリアしているが、男性が育児休暇を取得した実績がないため申請できない状況である。今後も行動計画のより良い具体化を目指したい。

（2）**処遇改善加算：**タイプⅠ（高い加算率）を得られるようキャリアアップ制度を整備した。
（3）**高齢職員の働き方：**調査・整理し、改善に努める予定だったが、できなかった。

9．その他

（1）グレイスとその関連施設、並びに、真菜の建物老朽化に関する審議

グレイスの経営改善のため、様々な案が出されたが、結論は出なかった。
真菜の今後のことについても、いろいろな案や意見が出たが，結論は出なかった。
但し、建物については、最低限の修繕をしたほうがよいということになった。

（2）介護職員初任者研修第2回目開催　（2017年8月12日～11月25日）

参加者18名、修了生の中から、1名が希望寮へ就職、1名はボランティアになる。

（3）「ワークセンター希望の家」における身辺自立できていない人の問題

建物を増築して多機能型施設にすることも検討したが、先送りとなった。

（4）全体の防災対策や訓練

本部を含むかなりの事業所がBCPを作成したが、実際の全体的な訓練はなされなかった。安否コールシステムによる100%の返信率を目指した訓練を2回実施した。

（5）2018年度のトリプル改定（医療と介護、障碍福祉分野の報酬改定）の発表

年度末近くになって発表があり、かなりの報酬減を案じたが、それほどでもないことが分かった。但し、高齢者施設の多くは、収入減が予想される。

Ⅵ. 機関紙、並びに、ホームページ、フェイスブック

機関紙は、6月号を除いて毎月発行した。
ホームページは、最新の内容、正確な内容を心がけたが、そうならないこともあった。
フェイスブックは、多くの事業所の参加、魅力的な内容という点で、なお改善が必要。

Ⅶ. 実習生やボランティアについて

長年にわたって協力して下さっている実習生やボランティアの皆さんは、下記の通り。この他、いろいろな形で私どもの働きを支援して下さっている方々に心から感謝したい。

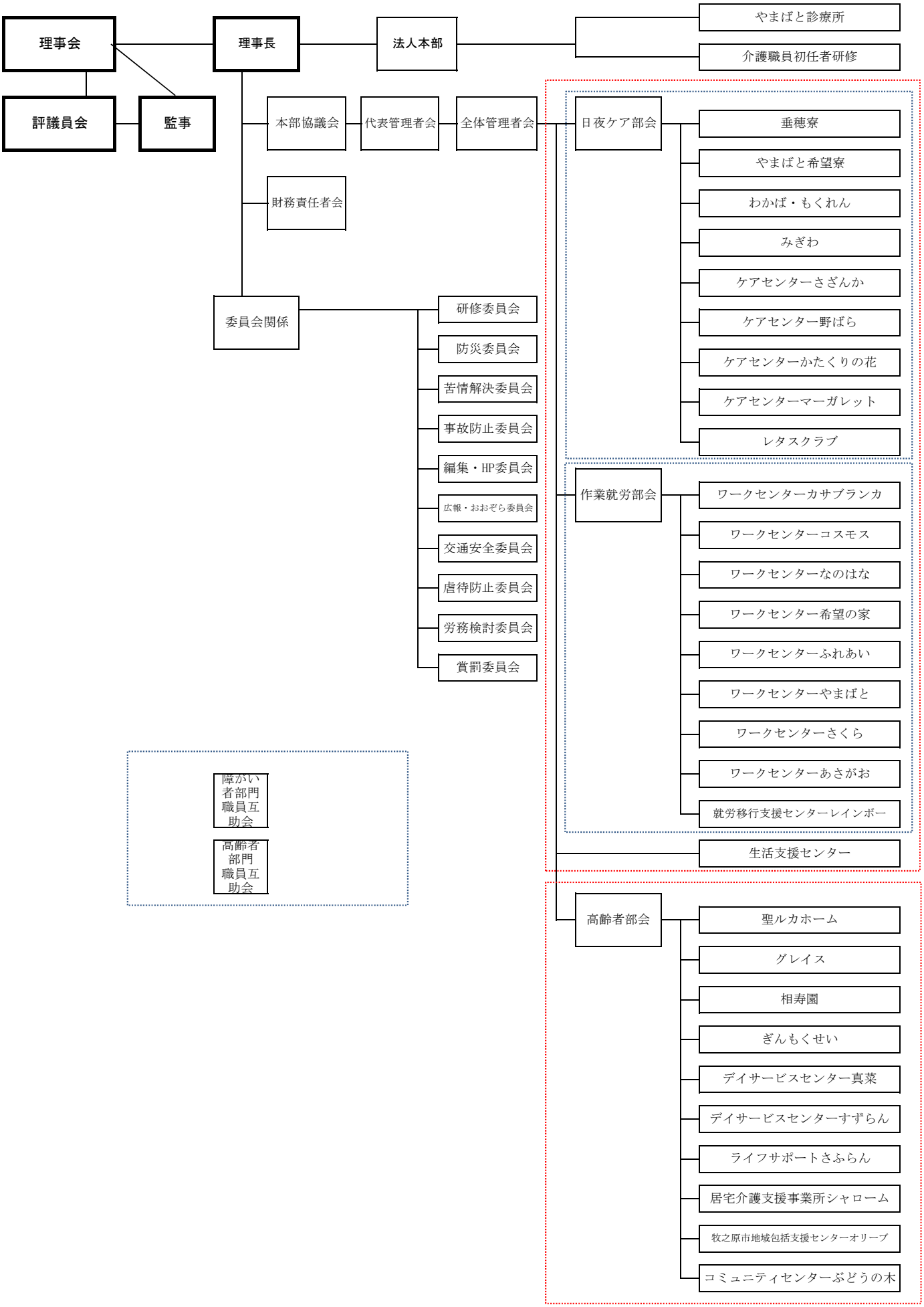
▼すみっこの石グループ（41年目。クリスマスコンサートを実施し、純益を寄付）、
▼恵泉女学園中高生の夏期実習（38年間、来訪して交流。学校での礼拝献金を寄付）
▼ICU卒業生有志の集い（大半の方が80歳になられ、16回目の今回で最後になった。）
▼島田教会婦人会有志（41年位にわたって、繕いもの奉仕）
▼竹の会（元日機装婦人部の皆様）（40年余の繕いもの奉仕）
▼坂部小の皆さんと、施設のご利用者とを結んで下さった三浦先生が定年退職されたが、「今後も続くような仕組みを作りましたから」とのことだった。交流を大切にしたい。

資料Ⅱ－１　　2017年度 牧ノ原やまばと学園 実施事業（2017/4/1付）　　（※職員数は、2017年3月1日の現況）

事業				事業所名	種別	設立年月日	定員（短期入所）	管理者等	正規職員	準職員	嘱託	パート	合計
			1	法人本部	―	1970・4・12	－	板倉　仁	3	1		2	6
社会福祉事業	老人福祉	第一種	2	聖ルカホーム（※２種事業ショート含む）	介護老人福祉施設他	1981・5・1	70(10)	大石　幸	38	4		30	72
			3	グレイス（※２種事業ショート含む）	地域密着型介護老人福祉施設他	2010・8・1	29(8)	山脇　世津子	21	2		13	36
			4	相寿園	養護老人ホーム他	1961・9・1	50(5)	板倉　元	8		1	9	18
			5	島田市立養護老人ホームぎんもくせい	養護老人ホーム他	1952・3・1	50(2)	片山　喜之	10			11	21
		第二種	6	デイサービスセンター真菜	通所介護他	1999・4・1	35	吉田　陽子	4			23	27
			7	デイサービスセンターすずらん	認知症対応型通所介護	2010・8・1	12	山脇　世津子	2			7	9
			8	ライフサポートさふらん	訪問介護他	2000・11・1	－	大石　幸	2	1		12	15
	障害者福祉	第一種	9	垂穂寮（※２種事業ショート含む）	障害者支援施設他	1987・4・1	50(4)	大畑　彰弘	31	1		11	43
			10	やまばと希望寮（※２種事業ショート含む）	障害者支援施設他	1997・4・1	30(5)	髙杉　和成	19	2		11	32
		第二種	11	わかば	共同生活援助（主住居）	2010・4・1	10	鈴木　秋次	1		1	9	11
			12	もくれん	共同生活援助（従住居）	2010・4・1	10	鈴木　秋次	1			14	15
			13	みぎわ	共同生活援助	2010・4・1	15	吉崎　伸男	4			9	13
			14	ケアセンターさざんか	生活介護	1997・4・1	20	柴田　慎也	5			11	16
			15	ケアセンター野ばら	生活介護	1999・4・1	20	山内　英人	5	1		8	14
			16	ケアセンターかたくりの花	生活介護	2006・4・1	20	鬼頭　淳	3	3		9	15
			17	ケアセンターマーガレット	生活介護	2005・4・1	20	増田　今日子	3	2		9	14
			18	ワークセンターカサブランカ	就労継続支援Ａ型	2007・4・1	15	押尾　恵	1	1	3	15	20
			19	ワークセンターコスモス	就労継続支援Ｂ型	1980・4・1	20	高松　祐輔	3			6	9
			20	ワークセンターなのはな	就労継続支援Ｂ型	2000・4・1	20	河本　敦子	4			8	12
			21	ワークセンター希望の家	就労継続支援Ｂ型　主	1981・10・1	40(20)	杉村　みや子	1	1	1	7	10
			22	ワークセンターふれあい	就労継続支援Ｂ型　従	1994・4・1	(20)	杉村　みや子	2			3	5
			23	ワークセンターやまばと	就労継続支援Ｂ型	1977・10・1	20	川嶋　栄	2	2	3	2	9
			24	ワークセンターさくら	就労継続支援Ｂ型	1981・10・1	22	植田　勝実	4			4	8
			25	就労移行支援センターレインボー	就労移行支援	2007・4・1	8	植田　勝実	2	1		1	4
			26	レタスクラブ	地域活動支援センター	2010・10・1	－	植田　勝実	1		1	2	4
			27	ワークセンターあさがお	就労継続支援Ｂ型	1992・4・1	20	榛地　裕子	2	1		5	8
			28	生活支援センターやまばと(牧之原/島田/吉田)	相談支援	2003・10・1	－	鈴木　勝利	8	2		2	12
公益事業			29	居宅介護支援事業所シャローム	居宅介護支援	1999・10・1	－	山脇　世津子	3				3
			30	牧之原市地域包括支援センターオリーブ	地域包括支援センター	2006・4・1	－	鈴木　ひろみ	5			3	8
			31	コミュニティセンターぶどうの木	介護予防拠点施設	2000・2・1	－	神谷　美代枝	1		1	2	4
			32	やまばと診療所	診療所	1973・4・1	－	廣瀬　安之			2		2
									199	25	13	258	495

2017年度　社会福祉法人牧ノ原やまばと学園　組織図

2017/4/1



評議員名簿

区分	氏名	役職その他
評議員	大石 節夫	吉田町社会福祉協議会会長
評議員	小澤 巖	前島田市社会福祉協議会会長
評議員	柴田 敏	静岡英和学院大学学長
評議員	杉本 正	牧之原市民生委員児童委員協議会会長
評議員	外岡 潤	当法人顧問弁護士　法律事務所おかげさま代表弁護士
評議員	長谷川 清太	聖隷福祉事業団聖隷厚生園讃栄施設長
評議員	早川 ひろみ	創設期のやまばと学園職員
評議員	久田 則夫	日本女子大学人間社会学部社会福祉学科教授
評議員	渡辺 紀久子	NPO 法人「日本のこどものための委員会」理事長

理事・監事名簿

区分	氏名	役職その他
理事長	長沢 道子	社会福祉法人牧ノ原やまばと学園理事長
理事	姉崎 弘	常葉大学教育学部教授
理事	伊藤 巧	元島田市福祉事務所長
理事	大石 幸	聖ルカホーム施設長
理事	金子 初子	元施設長
理事	神谷 美代枝	コミュニティセンターぶどうの木施設長
理事	佐々木 炎	NPO 法人ホッとスペース中原理事長、牧師
監事	鈴木 新	(福)十字の園理事兼本部長
監事	鈴木 武	静岡いのちの電話理事

任期

評議員（4 年）　2017 年 4 月 1 日～2020（平成 32）年度に関する定時評議員会の終結の時まで
(2021 年 6 月中頃予定)

理事（2 年）　2017 年 6 月 17 日～2018（平成 30）年度に関する定時評議員会の終結の時まで
(2019 年 6 月中頃予定)

監事（2 年）　2017 年 6 月 17 日～2018（平成 30）年度に関する定時評議員会の終結の時まで
(2019 年 6 月中頃予定)

2017年度理事会・評議員会の開催状況　　資料 1

評議員会

	開催年月日	評議員出席者	その他出席者	決議事項
評議員会	2017/6/17	9名	理事長1名 監　事2名	理事及び監事を選任する件/理事及び監事並びに評議員に関する報酬等の支給の基準について/理事及び監事、評議員の報酬の額/2016年度の計算書類（貸借対照表及び収支計算書）及び財産目録承認の件/ワークセンターなのはな建設に伴う基本財産の取得と

理事会

	開催年月日	理事出席者	監事出席者	決議事項
第1回理事会	2017/5/27	7名	2名	監事監査報告について/2016（平成28）年度事業報告（案）並びに決算（案）について/第1次補正予算（案）について/新役員候補の推薦について/理事会運営規程、並びに、評議員会運営規程の策定について/役員規則の廃止並びに、法改正に伴う新しい役員規程の制定について/退職金支給規程の変更について/基本財産への追加と定款の変更について/経理規程の変更について/給与規程の変更について/新しい賞罰委員会規程の作成、並びに、就業規則第9章「表彰及び懲戒」の改定と、パートタイマー等の就業規則第7章「表彰・懲戒」の改定/管理者に関する承認事項について/評議員会の招集について
第2回理事会	2017/6/17	5名	2名	理事長の選定について/召集権者の選定の件/
第3回理事会	2017/8/26	7名	2名	第2次補正予算案について/監事監査報告に対する回答について/監事監査実施規程の制定について/給与規程第27条、早番手当の条文の変更及び条番の修正について/就業規則第48条、及び、パートタイマー等就業規則第41条と36条の改正（法定健診分の費用負担の明確化、及び、条番の修正）/公印取扱規程の制定について/情報公開規程の制定について
第4回理事会	2017/11/11	7名	1名	グレイスのショートステイ事業の休止について/第3次補正予算案について/情報公開規程の制定について/就労移行支援センターレインボーの活動終結について/グレイスの借入金残額の一括返済について/パートタイマー等の就業規則 第27条 別表3の宿直手当の
第5回理事会	2018/1/6	6名	2名	新年度管理者人事について/「社会福祉法人による多様な福祉サービスの提供体制構築支援事業費補助金」事業申請と実施について/ワークセンターあさがお建設予定地承認と今後の手続き開始について/パートタイマー等の就業規則 第27条 別表3の宿直手当の
第6回理事会	2018/2/17	6名	2名	監事監査報告について/新年度管理者人事について/キャリアアップ制度構築に伴う「人事制度および考課規程」、「パートタイマー等の人事制度および考課規程」の制定、並びに、関連する給与規程の変更について/処遇改善手当の変更について/内部管理体制の基本方針策定について/ナルコ原の土地に係る基本財産処分申請、及び売却について/ワークセンターあさがお建設予定地の借地契約について/無期労働契約転換権発生の職員に対応するためのパートタイマー等の就業規則の変更について/就業規則 別表1 各事業所の勤務時間、休憩時間、始業及び終業時刻の変更について/育児・介護休業等に関する規程に育児支援のための夜間勤務免除を追加変更する件/ケアセンターさざんか、やまばと希望寮、わかばの給食業務委託業者との契約金額変更について/聖ルカホーム・デーサービスセンター真菜、グレイスの給食業務委託業者との契約金額変更及び契約延長について
第7回理事会	2018/3/24	7名	2名	垂穂寮拠点区分の建設積立金の目的外使用について/相寿園拠点区分前期末支払資金残高の取崩しについて/寄附金の受入れについて/2017(平成29)年度第4次（最終）補正予算案について/部長職の創設について/ワークセンターさくらの定員の変更について/2018(平成30)年度事業計画案、予算案について/定期監事監査報告に対する回答について/職務権限表に基づく権限の委譲について/寄附金等取扱規程の制定について

【2017年度法人研修】　資料2

新人職員研修

第1回　新人職員研修　2017年7月12日（水）知的障害に関する制度・施策を学ぶ（講師：職員・小野勝彦）

第2回　新人職員研修　2017年12月6日（水）社会人としての心構え・職場のルール（講師：施設長・伊藤巧）

新人職員オリエンテーション

第1回　2017年 4月1日（土）　9時～16時40分　参加者12名

第2回　2017年 8月1日（火）　9時～16時40分　参加者 8名

第3回　2017年12月1日（火）　9時～16時40分　参加者 9名

中堅職員研修

①2017年4月20日（木）最近の福祉の動向と牧ノ原やまばと学園の目指すもの（講師：理事長・長沢道子）参加者13名

②2017年5月24日（水）障害者虐待防止法の理解と対応（講師：職員・小野勝彦）参加者18名

③2017年6月28日（水）コミュニケーションとチームワーク（講師：施設長・鈴木ひろみ）参加者16名

④2017年7月20日（木）施設における問題解決（講師：施設長・片山喜之）参加者14名

リーダー育成研修

①2017年5月18日（木）福祉の潮流と法人理念（講師：理事長・長沢道子）参加者16名

②2017年7月4日（火）福祉の質の向上を目指して～利用者の権利擁護の視点～（講師：社会福祉士・五味保教氏）参加者16名

③2017年9月6日（水）人権擁護とリスクマネジメント（講師：職員・小野勝彦）参加者13名

④2017年10月4日（水）チームワークとリーダーシップ（講師：施設長・神谷美代枝）参加者14名

管理者研修

①2017年6月16日（金）（講師：顧問弁護士・外岡潤氏）参加者21名

②2017年10月30日（月）施設長の役割について（講師：聖隷福祉事業団「賛栄寮」施設長・長谷川清太氏）参加者22名

③2017年11月14日（火）キャリアアップ制度の進捗状況（講師：社会保険労務士・小山圭子氏）参加者18名

④2017年12月15日（金）労務管理のポイント・「上手くいっている」施設から学ぶ（講師：顧問弁護士・外岡潤氏）

⑤2018年3月13日（火）新年度の体制について。キャリアパスについての学び。

（講師：長澤理事長＆2018年度就任予定の部長3名）※島田信用金庫2階会議室

~~~~~~

【2017年度研修委員会人研修主催　研修】

全体研修①　2017年4月8日（土）「ともに生きる」～わたしが出会った人たち～

午前：講演『ともに生きる～私の出会ったホームレスの人たち』　NPO法人抱樸　理事長　奥田知志氏

午後：グループワーク「本音で語る、わたしたちの仕事と職場」

全体研修②　2017年10月7日（土）「福祉のプロとなるために～困難事例への対応」

午前：困難事例検討①（高齢者関連）

午後：困難事例検討②（障がい者関連）　講評（日本女子大学　人間社会学部福祉学科教授　久田則夫氏）

部門別研修

（障がい）　2018年2月28日（水）～コミュニケーション能力アップのためにアンガ-マネジメント研修

（講師：青葉台カウンセリングルーム臨床心理士　小渕朝子氏）

（高齢）　①2017年6月30日（金）・7月21日（金）　②2017年7月7日（金）・8月4日（金）

虐待研修（同じ研修を2つの日程で行った。）
~~~~~~

地域に対する公益的取組み

資料３

１．無料又は低額な料金で、低所得の人にサービスを提供
①「聖ルカホーム」、「グレイス」、「ライフサポートさふらん」が該当。
②「介護職員初任者研修」でも、申し込めば、受講料を減額。

２．居場所の提供
①「Ｙカフェ」一人暮らし高齢者を車で送迎。昼食を提供し作品創り等。
②「レタスクラブ」で、引きこもっていた人たちのために居場所を提供。

３．いろいろな理由から行き場がないご利用者の受け入れ、
①グループホームみぎわ（ホームの住人として）
②ワークセンター希望の家（ご利用者として）

４．施設の開放、施設の設備等の物品貸し出し
①グレイス（カラオケの設備）
②さざんか（生活介護施設で、入浴サービス提供）

５．地域で暮らす障碍者や高齢者への支援
①月１回の家族通所：ケアセンターマーガレット
重症心身障害のご本人と、ご家族を、月１回、無料で受け入れ
（お誕生日のお祝いをしたり、行事へ参加してもらうこともある。）
②就労後の障碍者を定期的にフォロー（フォローの義務はない人々）
就労移行支援センターレインボー
③独自の短期入所サービス
地域の高齢者のために、低価格な自己負担額で、宿泊サービスを提供

６．地域住民との交流　：法人本部、真菜、ワークセンターやまばと
オリーブ園を中心にして、年に１回、障碍者や高齢者と、地域住民との交流、オリーブの花の鑑賞やオリーブ茶の試飲など、オリーブの成長を楽しむとともに、フリーマーケットや農家の野菜販売などを実施。

７．介護保険制度についてなど、求められれば、出向いてお話
グレイス、包括支援センター、コミュニティセンターぶどうの木

2017(平成29)年度事業報告

障害者支援施設
垂穂寮

Ⅰ　活動方針並びに課題

1　活動方針

法人が掲げる理念並びにリニューアルプランに沿って事業を実施した。また、一昨年に発生した虐待事件を教訓として､正しい情報がなるべく早くに必要な職員に届くこと。また、職員が孤立せず、お互いが支えあう組織作りを進めることができた。

2　課題（評価）

(1)　虐待事件の再発防止策（指導勧告書に対する回答）を着実に履行した。事業所内でできることは、福祉ｻｰﾋﾞｽ第三者評価（2018 年度実施予定）以外はすべてに取組むことができた。特に第三者委員参加の虐待防止委員会の毎月開催、加えて、研修については、職員が不足する中でも内部研修の実施、外部研修へ積極的に受講することができた。

(2)　福祉サービス第三者評価基準を意識した運営については、マニュアル整備を進めることができなかった。理念等の具体的な「周知」については、全職員のテスト方式を用いるなど、基準を意識して取り組むことができた。

(3)　情報発信については、職員だより「たりほ」、家族だより「みのり」を毎月発行し、施設長の考え、垂穂寮の現在を発信することができた。また、携帯電話ﾒｰﾙｼｽﾃﾑの活用による職員個人への連絡、事業所 PC メールを使った情報伝達等、予定どおり行うことができた。ただし、Facebook については不定期更新、新ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄは未完成となった。

3　虐待事件の再発防止について

2016 年 7 月 15 日に発生した当事業所職員による利用者虐待事件、この再発防止策として本年度の取り組みについて、以下のとおり改めて整理する。

(1) 改めて虐待発生原因（主として静岡県報告以外で垂穂寮内部のもの）

①情報が伝わりにくかったことから、全体として統一が取り難い組織であった
②責任と権限が比例せず、意思決定が迅速にできなかった、また、決定したことが容易に変わってしまったり、また、放置されてしまっていた
③他責（他人の責任）の発想を代表としたネガティブマインドに包まれていた
④外部刺激が薄く、私たち自らの力不足に気づけなかった
⑤風通しが低下し、垂穂寮全体としてのチームワークが機能していなかった

(2) 具体的取組みと達成率

①情報の伝達

前年度からの情報掲示板や Q&A 掲示板の活用に加えて、職員携帯メール配信システムの積極的活用、事業所内 PC のメール配信体制を構築により、必要な情報が早期に職員に届くようになった。また、メモ帳の活用を積極的に周知したこと、全体職員会を参加割合の多い夜間開催を継続したこと、施設長便りを毎月発行したこと等で、情報難民は解消され、徐々に統一性が見られてきた。達成率 60%

②意思決定の迅速化等

組織図を整理し指示命令系統の明確化、会議体の構成図を整理した、意思決定の最高機関として全職種の代表者参加の運営会議を新たに設けた。また、決定の迅速化を進めるため、内容により、関係職員に相談の上で、施設長権限でなるべく早くに決定し、なるべく早くに改善を図るように努めた。事務分掌は一部のみ。　達成率 50%

③ポジティブマインドの形成

小さな修理や放置されていた課題などの職場環境の改善については、スピード感を

持って積極的に対応した。また、「利用者の良いとこ探し」を職員アイデアにより進め、次は「職員の良いとこ探し」と行いたいという意見がでるようになった、また、引継ぎ等で笑顔や笑いが多く出てきたことなどから、ネガティブマインドが減少し、ポジティブマインドが徐々に育ってきたと思われる。ただし、他責の発想から自責（自分の責任）の発想に転換したかについてはまだまだであると感じている。　達成率 50%

④外部刺激による自己覚知

外部の第三者委員（独立型社会福祉士）を向かえ、虐待防止委員会を毎月開催し、毎回、厳しいアドバイスをいただいた。外部講師を迎え事業所内研修の開催し、外部研修や他事業所実習へ積極的参加、他事業所や他法人の職員と交流することができた。ただし、目標の 100%参加率には到らず。達成率 45%

⑤チーム垂穂寮としてのチームワークの形成

挨拶の励行を通して、挨拶ができる組織に徐々になったこと、情報が徐々に伝わる組織になったこと、報告・連絡・相談が機能してきたことから、風通しは徐々に改善されてきたと感じている。また、人事異動、組織図の明確化等により、各職種間の役割分担が整理、明確化され、各部門それぞれ、また全体としてチームとしての形が出来てきた。ただし、役割の不明瞭な部分、セクショナリズムは一部残っている。また、個別支援計画を中心とした支援の実施には到っていない。達成率 40%

Ⅱ　利用者と職員の状況

1　利用者

(1) 施設入所支援（平成 30 年 3 月 31 日現在）

定員 50 名、現員 49 名　12 月 11 日に 1 名退所　男性 29 名、女性 20 名　利用率 97.4%

平均要支援区分 5.86　　平均在所年数　男性 22.9 年　女性 25.6 年　合計 24.0 年

平均年齢　男性 51 歳、女性 54.2 歳　合計 52.3 歳　最高年齢 78 歳　最低年齢 23 歳

(2) 生活介護

定員 50 名　現員 48 名　12 月 11 日 1 名退所　男性 28 名、女性 20 名　利用率 96.3%

(3) 短期入所（ショートステイ）

定員 4 名　＊（4）日中一時支援とあわせて

職員不足等を理由に、原則は休止。ただし、緊急で延べ 2 名受入　利用率 0%

(4) 日中一時支援（日帰りショート）

定員 4 名　＊（3）短期入所とあわせて　本年度から再開。　利用率 34.9%

2　職員

(1) 職員配置の状況（平成 30 年 3 月 31 日現在）

事務部門　施設長 1 名、副施設長 1 名（兼務）、主任事務員 1 名、事務員 2 名（兼務）

相談部門　主任ｻｰﾋﾞｽ管理責任者 1 名、サービス管理責任者 1 名（兼務）

支援部門　主任生活支援員 2 名、副主任生活支援員 4 名、生活支援員 26 名（正規職員 18 名（内 1 名兼務）、準職 2 名、ﾊﾟｰﾄ 8 名（内 3 名兼務））、業務員 3 名（兼務）

看護部門　看護師 3 名（内ﾊﾟｰﾄ 1 名）、

調理部門　栄養士 1 名（嘱託）、調理員 4 名（正規職員 2 名、準職 1 名、ﾊﾟｰﾄ 1 名）

(2) 入退職、人事異動の状況

新規採用 1 名（生活支援員・ﾊﾟｰﾄ）、退職者 3 名（生活支援員・正規）

転出 4 名（事務長　栄養士、生活支援員 2 名）、転入 4 名（事務員、生活支援員 3 名）

Ⅲ　サービスとケアの内容

1　生活介護・施設入所支援

年間行事は、ﾎｯﾄﾌﾟﾗﾝ（外出・6～12 月）、七夕、納涼祭、日帰り旅行（30 周年記念行事）、ｸﾘｽﾏｽ会、新年会、節分を開催する。月間行事として誕生会、音楽の集い、出張ｶﾌｪ（隔月）、12 月からはﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの協力によりｱﾛﾏﾏｯｻｰｼﾞをはじめる。

また、日課として午前は散歩（雨天ﾄﾞﾗｲﾌﾞ）、午後は入浴を 2 日 1 回男女交代で実施。

2　健康管理

（1）受診実績

	精神科	内科	耳鼻科	外科	歯科	眼科	皮膚科	その他	計
件数	338	217	160	30	37	31	57	104	1,050

（2）往診その他

廣瀬医師月2回、田代医師月1回、訪問医療ﾏｯｻｰｼﾞを3月から導入し、利用者4名のﾏｯｻｰｼﾞを4月、10月健康診断、5月歯科検診、12月ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ予防接種を実施

Ⅳ　防災並びに交通安全

1　防災　消防計画に基づき、毎月1回の避難訓練、年合計5回の安否ｺｰﾙﾒｰﾙ訓練を実施した。11月には島田消防署等立会いのもと、起震車体験等総合防災訓練を実施した。

2　交通安全　公務中の交通違反や事故はない。

Ⅴ　苦情とその対応、並びに虐待と思われる事案に対する対応など

1　苦情　3 件　帰宅時に痣、職員の態度、権限のない行政申請

2　ﾋﾔﾘﾊｯﾄ　50 件　他の利用者を叩こうとしたものが最も多い。

3　事故　189 件　他の利用者を叩く、噛み付く行為又はその受傷がおよそ半数。

Ⅵ　家族や地域

1　家族　家族便り「みのり」を毎月発送し情報提供、年 3 回のふれあい（帰宅）期間、年 3 回の家族参加行事、保護者会への参加、年 2 回の個別支援計画の説明、家族・利用者ｱﾝｹｰﾄを通して情報交換等を図る。

2　地域　町内会の準会員として、地域行事へ、隣接ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ利用者と施設長が参加

Ⅶ　実習生やボランティア

1　実習生　4大学、20名、延べ226日の受け入れを行う。

2　ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ　調理2名（延べ156回）、繕い物2団体（延べ24回）、ｱﾛﾏﾏｯｻｰｼﾞ1名（延べ3回）、また、地域老人会、保護者会による草刈り、行事手伝い等

Ⅷ　環境整備（建築、改修、修繕等を含む）

自動施錠等鍵の変更、明るい照明への変更、門扉入口ｶｰﾌﾞﾐﾗｰ等設置、ｺﾝｾﾝﾄ増設、作業棟汚物流しの改修等、修理・回収を都度対応。研修用ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀｰ、ﾏｯｻｰｼﾞﾁｪｱ購入、食器消毒保管庫、冷蔵庫、支援室PC、大ﾎｰﾙTV、体重計の買換え　等

Ⅸ　職員研修

内部研修6回、外部研修正規職員参加率91%、研修参加総日数117日、通信教育4名受講等々

Ⅹ　その他

職員不足は続くも、ﾎﾟｼﾞﾃｨﾌﾞﾏｲﾝﾄﾞが徐々に育ち、情報の伝達力に改善が見られた。

2017(平成29)年度事業報告

障害者支援施設
やまばと希望寮

Ⅰ　活動方針並びに課題

1　活動方針について

法人が掲げる理念並びにリニューアルプランに沿って事業を実施した。

2　課題

(1)　人権擁護､虐待防止の取り組みに関して年 2 回虐待チェックシートに基づく支援の振り返りを実施。外部研修等への参加は実施できなかった。

(2) 計画相談支援に沿って、利用者個々に合った生活支援を心掛ける。保護者･ご家族の意見交換の機会が少ない。

(3) チーフ会を中心として希望寮のご利用者の支援、生活環境、人員配置等話し合いを進めた。内部での検討機会を多く持つことはできたが関係機関との連携は進まなかった

(4) 高齢化･重度化に焦点を当てたが若い利用者の生活を充実させるための支援が不十分。

Ⅱ　利用者と職員の状況

1　利用者について

(1) 定員 30 名、現員 30 名（男性 21 名、女性 9 名）

(2) ショートステイ(宿泊)利用定員 5 名、日中一時支援(日帰り)利用定員 9 名で実施。

2　職員について

職種別：施設長 1 名、サービス管理責任者 1 名、看護師 1 名、管理栄養士 1 名
支援員 24 名（内準職 3 名、パート 8 名)、事務員 2 名（内パート 1 名）

★年度途中、管理栄養士の異動があった。

Ⅲ　サービスとケアの内容

1　生活介護

通院する機会が増加し、日課の基本としていた散歩や作業の実施回数は減少。月 1～2 回の小外出、特別外出は今年度も実施。個別の音楽療法は今年度で終了。訪問マッサージの利用を開始する。

2　施設入所

(1) 個別支援計画を基に安心安全な生活を起こることを目指すが老齢化･重度の疾患､転倒骨折､接触による怪我等もあり､安全な居住空間の整備に取り組むが､快適な生活空間を整備することができなかった。

(2) 健康管理

	精神科	内科	耳鼻科	外科	呼吸器	眼科	皮膚科	その他
件　数	212	53	1	18	45	11	4	60

歯科については訪問歯科にて対応。

Ⅳ　防災並びに交通安全

1　防災

(1) 火災及び地震に対する計画に基づき防災訓練を行った。火災に対しては、消防署の指導を参考に出来る限り実際に対応出来るような形で実施。地震に対しての準備・検討を行った。

(2) 今年度も、地元坂2町内会と地震の総合訓練を実施した。今後の課題として地域とのより細かな協力体制が課題。

2　交通安全

事故等起きないよう日頃より心掛けて来た。

Ⅴ　苦情とその対応、並びに、虐待と思われる事案に対する対応など

ヒヤリハット・事故報告については、211 件（原因不明記録表 132 件､ヒヤリ 14 件、事故 65 件）あった。ヒヤリの報告が減少し事故の報告が増加。簡易的な書式にした成果が出ていない。昨年度同様に服薬関連の事故への取り組みが必要。

Ⅵ　家族や地域

1　家族との関係

年２回の個別面談、奉仕作業、総会、行事、ふれあい期間の案内等を発送することで、定期的に保護者との連絡を行う。

2　短期入所・日中一時支援の受入れ

地域に対する役割として、ショートステイ（宿泊利用）及び日中一時支援（日帰り利用）の受入れを例年通り実施して来た。

Ⅶ　実習生やボランティア

1　実習生の受け入れ

障がいを持つ方々と接する経験は、人を理解する上で大変大きな意味を持つと考え、これからの社会を担う人を育てるという意味からできる限り積極的に受入をしてきた。

2　ボランティアの受け入れ

行事以外で利用者と関わってくれるボランティアを得ることはできていない。そのための活動をする余裕がないという実情であった｡今後機会を得られれば再度取り組みたい。

Ⅷ　環境整備（建築、改修、修繕等を含む）

1　通院対応の増加、ご利用者のに伴い車イス対応車輌を購入。

2　娯楽室改修工事は実施に至らなかった。

Ⅸ　職員研修

現場職員の入れ替わりに伴い専門知識を有する職員が減少。障害特性を学ぶ研修への派遣を計画するも現場職員の不足により実施に至らず､法人内の研修への参加もできなかった。職員の専門性の向上、自己研鑽、モチベーションを上げる等の機会を与えることが出来なかった。

Ⅹ　その他

支援記録についてPC､タブレット端末を使用し、重複していた記録の整理、記録に係わる時間の削減に取り組む事が出来た。誰もが使用出来る状態には時間が掛かるが成果は出始めている。一方で記録を専門にとる職員の配置も必要となり。PC、タブレット端末の有効的な記録方法についてはまだまだ改善の余地がある。

2017(平成 29)年度事業報告

共同生活援助事業所
(介護サービス内包型)
わかば、もくれん

Ⅰ　活動方針並びに課題

1　活動方針

法人が掲げる理念並びにリニューアルプランに沿って事業を実施した。

2　課題

「わかば」では安心と健康･安全のための配慮をし寄り添う時間を多く創った支援をした。利用者皆さんが落ち着いた生活となり笑顔が多く穏やかに過ごされている。

「わかば」では利用者が中年になり肥満体型になった人もいるので食事、運動に留意したホームでの生活を行い、休日は長距離散歩を行った結果、体重減少の効果が現れた。

「もくれん」では利用者が高齢化し介護度負担が重く、通院回数の増の問題があるが同一病院の診察、通院を同じ日にして回数の軽減を行い工夫した。しかし、見守りの不足による転倒などの怪我が多くあり、事故に繋がるケースが見られた。職員の疲労や人員不足についても、解決を求められている。

「もくれん」拘りの激しくなっている強度行動障害の利用者と共同生活が困難な利用者の対応に取り組んでいるが苦慮している。

Ⅱ　利用者や職員状況

＜わかば＞

利用者について 1 名が、ポータブルトイレから立ち上がる時バランスを崩し転倒による右肩脱臼で日中活動先を 2 週間休む事故があった。利用者は感染症など風邪の症状も無く元気に過ごされ、秋の日帰り旅行も皆で楽しむ事ができた。

＜もくれん＞

利用者については高齢化が進み、転倒など怪我が増えて通院や活動先を休む利用者が複数名あり、支援が重度化している現実がある。一昨年 9 月より入居した利用者が行動障害の強い利用者に攻撃されたり、てんかん発作が激しくなったりし、12 月末、重積発作を伴う大きな発作があり救急搬送され、総合病院から静岡神経医療センターに長期入院（1 ヶ月）となった。職員不足の中、付き添い支援などスタッフに影響した。

Ⅲ　サービスとケアの内容

1　わかばでは自由で伸び伸びした生活空間を創り、家庭的な生活を楽しんで頂いた。

(1) 鍵による管理はしないよう努めた。結果、無断外出が減少し、ほぼ無くなりつつある。自閉症、或いはその傾向が強い利用者が多いため特性を考慮した支援を継続した結果、拘りが減少している。

(2) もくれんでは問題が生じた場合、対症療法的な対応ではなく、本人が納得出来る形で解決を図るよう努め時間を掛けながら取り組んだ。ただし、本人の理解度も含めて苦慮している。

(3) 自身の出来る事を増やし（洗濯物干しタオルたたみ、掃除、ゴミ出し等出来ている）どの利用者にも生活の中に役割を持っていただき、出来る事を増やし活躍して頂いた。

2　土日の過ごし方

(1) 買い物や調理等、生活を実感出来る内容を取り入れ、スタッフといっしょに食事やおやつ作りを楽しんでいただいた。もくれんでは土曜、散歩を兼ねながらカフェこむぎに

立ち寄ってコーヒーを楽しんだ。

(2) 外出の機会を多く作り、地域で公共交通機関を利用し経験を積む支援をした。

(3) 清潔を保つ事、当たり前の生活を実感して頂き快適な空間で生活して頂いた。

3 健康管理

規則正しい生活習慣を整え、散歩に出る習慣作りを、時間をかけて取り取り組んだ。
手洗い、うがい等早い時期から徹底して行い、風邪も引くことなく健康が守られた。

Ⅳ 防災並びに交通安全

1 防災や交通安全についての意識づくりをし、施設内研修に参加した。

2 避難訓練を毎月実施し、いろいろな場面想定をした避難訓練をバックアップ施設と協力しながら、わかば、もくれん単独でも訓練をした。

3 緊急時の支援 わかばは希望寮の支援を得る。もくれんはグレイスの支援を得る。

Ⅴ 苦情とその対応、並びに、虐待と思われる事案に対する対応など

1 苦情とその対応

法人内の事件を自身の事業所の事として受け止め、スタッフ全員での会議で話し合いを持ち、互いに注意し合えるよう前向きに受け止めるように毎月の会議の中で確認した。
毎月の会議の中で、サービス提供指針、虐待防止マニュアルを全員で輪読し、意識を深めた。

Ⅵ 家族や地域

1 家族 定期的な帰宅は継続し、その都度話し合いを持った。

2 地域 ふれあい広場などに参加をした。

Ⅶ 実習生やボランティア

1 実習生 なし

2 ボランティア 多くの地域住民に福祉施設を知ってもらえるよう努めた。2名あり。

Ⅷ 環境整備（建築、改修、修繕等を含む）

建物内部の掃除をしっかり行った。掃除は毎日行い、清潔を保つことを心掛けた。
緊急避難経路の外部ベランダの塗装をスタッフで行い、見栄え良く綺麗に仕上げた。

Ⅸ 職員研修

非常勤のパートスタッフが大半を占めることもあり、自閉症の研修やてんかん講座等、専門性を高めていく研修が出来なかった。次年度は全員が必ず研修に参加したい。
正規職員は、内部、外部研修に多く参加できた。

Ⅹ その他

毎月のケアホーム全体会議において、聖書の輪読をして、職員一人ひとりの内面に語り掛けていくように行うことができた。また、虐待防止マニュアル、サービス提供指針 2 章、人権への配慮を毎月の会議の中で繰り返し読み合わせ周知した。

2017(平成29)年度事業報告

共同生活援助事業所
(介護サービス内包型)
みぎわ

Ⅰ　活動方針並びに課題

1　活動方針について
法人が掲げる理念並びにリニューアルプランに沿って事業を実施した。

2　課題

(1) ご利用者が 15 名の新体制となり 2 年目となるが、みぎわ棟・あおば棟の合同行事等は行うことができなかった。次年度の課題とし、取り組んでいきたい。

(2) ご利用者同士のトラブルにより、ご利用者が頭部を 3 針縫う事故が起きてしまった。利用者間のトラブルは今後も考えられる為、事業所内のルール等をわかりやすい形でご利用者に提示し、充分に注意していきたい。

(3) 大津地区の夏祭りや運動会に参加し、地域とのつながりを持つことができた。また,他事業所の移動支援事業を利用し、地域のさまざまな行事にも参加することができた。

Ⅱ　利用者と職員の状況

1 利用者について
定員 15 名、現員 15 名（男性 12 名、女性 3 名）

2　職員について
職種別 : 施設長 1 名(生活支援員兼務)、サービス管理責任者 1 名(生活支援員兼務)、生活支援員 3 名(常勤 3 名)、世話人 10 名(常勤 1 名、パート 9 名)、事務員 1 名(生活支援員兼務)
★6 月より施設長が交代し、非常勤の世話人が 1 名加わった。10 月に常勤の世話人が 1 名退職した。

Ⅲ　サービスとケアの内容

1　ご利用者の日中活動先への送迎は、行きは 1 名が公用車、帰りはコスモス 3 名、なのはな 2 名、うたしあ 1 名の計 6 名の為、垂穂寮公用車を使用し行った。

2　生活習慣が身についていないご利用者には、根気よく声掛けをし支援を行った。自閉症の方には、ご本人に理解していただくための方法や手段を模索し支援した。

3　通院は、ご家族の協力を得た方もあったが、定期的な受診や緊急性の高い受診等、職員によるものが多かった。幸い、入院された方はいなかった。

4　毎月の体重測定を実施するとともに、看護師や管理栄養士の指導のもと、食事管理、健康管理等に配慮した。

5　誕生者のいる月には、ケーキ等で誕生をお祝いした。

6　土日祝日は、個別の外出や帰宅される方以外は、散歩、ドライブ等を行った。

7　週末には、外部の事業所を利用し外出される方がいる。ご利用者の楽しみのひとつとなっている。

8　あおば棟ご利用者を対象に自治会は、1 回のみの開催となってしまった。次年度は、月に 1 回開催し、意見交換の場を持ちたい。

9　虐待を防止し、ご利用者の人権を保護するため、虐待防止窓口を設置し、虐待防止受付担当、虐待防止マネージャー、虐待防止責任者を定め、緊急時への対応も含め、本部と適

切に連携し、積極的に問題解決に当たるよう、体制を整えている。

Ⅳ　防災並びに交通安全

1　毎月1回、夜間の火災や災害時に重点を置いた防災訓練を実施した。
夜間帯（21：00～6：00）は、ご利用者15名に対し、職員1人で支援にあたっている。警備防犯体制を強化するため、（株）セコムと警備契約（火災通報・非常通報）を結んでいる。

2　余暇活動や通院、日中活動先への送迎等で、ご利用者が公用車に同乗するため、職員は交通マナーを遵守し、安全に十分注意し運転を行った。

3　自転車を使用するご利用者には、交通マナーを教えるとともに、安全運転を意識していただいた。

Ⅴ　苦情とその対応、並びに、虐待と思われる事案に対する対応など

1　苦情は0件だった。要望については、チーム全体として問題解決にあたるべきことを周知し、誠実に対応した。

2　事故報告は27件だった。高齢による転倒が相次いで起こってしまっている。また、3月には水中毒で救急搬送された方が出てしまった。職員間で情報を共有し、職員会議で支援について話し合い、事故防止に取り組まなければならない。

3　ヒヤリハット報告は5件だった。報告が少なく、事故として起きてしまい報告されることが多い。小さなヒヤリハットを確実に記録・報告していける環境を目指す。

Ⅵ　家族や地域

1　家族との話し合いの機会は、その都度個別に持った。「ご家族の集い」は、7月・3月に行ったが、参加率は年々低下してきている。保護者会のあり方について検討していく必要がある。

2　ご家族とのふれあいの行事は実施できなかった。次年度の課題とし、ご利用者に気軽に会いに訪れることができるような事業所を目指したい。

3　大津地区の夏祭りや運動会に参加した。次年度は、地域の清掃行事等に参加したい。

Ⅶ　実習生やボランティア

実習生やボランティアの受入はなかった。

Ⅷ　環境整備（建築、改修、修繕等を含む）

1　ワークセンターあさがおに委託し、みぎわ棟建物内の共有スペースの掃除を週3回行った。
職員は、利用者の衣類整理や、居室美化に努めた。次年度も引き続き実施したい。
あおば棟の外壁の塗替え時期に来ている。今後計画を立て予算を組んで実施していきたい。

2　草刈りや花壇の手入れ等を定期的に実施した。

Ⅸ　職員研修

法人内外の研修に参加したが、成果として報告できる段階にはない。次年度は、全職員の研修参加を実施していく。

Ⅹ　その他

わかばとの世話人交流会が実施できなかった。引き続き計画を立て実施していきたい。

2017(平成29)年度事業報告

生活介護事業所
ケアセンターさざんか

Ⅰ　活動方針並びに課題

1　基本方針について

法人が掲げる理念並びにリニューアルプランに沿って事業を実施した。

2　課題

(1) 利用者の希望をできる限り反映できるように職員が支援にあたることができた。

(2) ヒヤリハット報告を利用し、利用者が安全・安心に過ごせるように環境を整え支援できた。ヒヤリハット報告の件数が多かった。

(3) 2017 年 12 月下旬から、法人と業者の話し合いを持ちながら、着工時期（2021 年）を確認。建設に向けた話し合いを進める。

(4) 介護負担軽減対策として、2018 年 1 年電動アシスト車椅子 3 台購入。
今後も福祉用具導入・負担軽減策を話し合っていく。

Ⅱ　利用者と職員の状況

1 利用者について

定員 20 名、利用登録者数 24 名

2017 年 7 月に、1 名昇天され、登録者数 24 名から、23 名となる。

2　職員について

職員数は、13 名：施設長 1 名（サービス管理責任者兼務）看護師 1 名（パート）

生活支援員 12 名（内正職 2 名・準職 1 名)、事務員 1 名

Ⅲ　サービスとケアの内容

1　サービス実施状況

送迎サービス：希望者20名毎日実施　通院付き添い：希望者3名3回実施

入浴サービス：希望者9名（男性5名・女性4名）48日延べ人数432人実施

行事として、運動会・クリスマス会・成人を祝う会・食事会を行った。

納涼祭は、初めて、日中にさざんか単独で開催した。

外出については、利用者のアンケートを基に、苺狩り・花鳥園・エアパーク・動物園

バイキング・駿府匠宿へ小グループ外出した。

クラブ活動（6クラブ）を年12回行った。

Ⅳ　防災並びに交通安全

1　全員参加の防災訓練を2回、通信訓練2回行った。
安全面に配慮しながら実施することがでた。

2　交通安全では、公用車で出かける時は、交通規則を遵守し安全運転に心掛けた。

Ⅴ　苦情とその対応、並びに、虐待と思われる事案に対する対応など

ヒヤリハット・事故報告については、57 件（ヒヤリ 51 件、事故 6 件)。

ヒヤリハット・事故報告は、全職員に解りやすい場所に周知した。

ヒヤリハット報告については、事故に繋がらないような対策を話し合った。

事故報告は、活動中の怪我が多く、検証して再発防止に努めた。

Ⅵ　家族や地域

1　家族との関係

年4回の保護者会を開くことができました。また、クリスマス会で家族を招待して、他の利用者家族・家族との交流ができた。

2　地域との交流

牧之原市の福祉交流会・社協主催のふれあい広場に参加した。

坂部小3年生の交流・雙葉学園クリスマス訪問での交流もあった。

Ⅶ　実習生やボランティア

1　実習生の受け入れ

職業体験実習で榛原中学生３名延べ３日、特別支援学校の体験実習生で１名延べ１日、清流館高校実習３名延べ２日あった。

2　ボランティアの受け入れ

読み聞かせボランティア６回・日赤奉仕団４回（環境整備）、音楽教室（有償ボランティア）笑いヨガ（有償ボランティア）は定期的にあった。

Ⅷ　環境整備（建築、改修、修繕等を含む）

大きな修繕などはなかった。環境整備(草刈り含め)課題である。

Ⅸ　職員研修

法人の内部研修を始め、外部では静岡県知的障害者福祉協会などの研修に4件参加できた。研修に参加回数が少なく、日程調整など課題である。

Ⅹ　その他

今年度、開所20周年迎え、12月クリスマス会でお祝いをした。

2017(平成 29)年度事業報告

生活介護事業所
ケアセンター野ばら

Ⅰ　活動方針並びに課題

1　活動方針

法人が掲げる理念並びにリニューアルプランに沿って事業を実施した。

2　課題

(1) 利用者の高齢化、重度化に伴い、健康管理については、登所時の早期発見を心がけ、必要によっては看護師に判断を仰ぎ、保護者に通院等の依頼を行うことが出来た。特に冬場の発熱については注意を払うことができた。

(2) 在宅支援に関しては、他法人の事業所を利用する利用者については直接対話して情報共有を図ることができた。また、在宅に利用者については、送迎時、家族との情報交換とノートを利用した情報のやり取りを行うことができた。

(3) エリア内 3 事業所との連携については、サービス管理責任者を窓口とした情報共有が中心となった。ただし、支援業務を行う職員まで情報が流れていないことがあり、情報提供の仕方については、今後の課題と考えている。

Ⅱ　利用者と職員の状況

1　利用者について（2018 年 3 月 31 日現在）

(1) 生活介護

定員 20 名、現員 21 名（男性 12 名、女性 9 名）
1 月に 1 名の契約終了者あり。
開所日数 253 日、延利用者数 5,138 人、登所率 92.3%、利用率 101.4%、
平均利用者数 20.3 人

(2) ライフサポート事業

実用者数 7 名、延利用者数 41 名　総利用時間数 78.5 時間

2　職員について

(1) 職員配置の状況（2018 年 3 月 31 日現在）

施設長 1 名、主任サービス管理責任者 1 名、看護師 1 名（他事業所兼務)、
生活支援員 10 名（内訳：正職 2 名、準職 1 名、ﾊﾟｰﾄ 7 名)、調理員 1 名、
運転士 1 名（ﾊﾟｰﾄ)、事務員 1 名（他事業所兼務）：計　16 名

(2) 入退職、人事異動の状況

新規採用 2 名（生活支援員・ﾊﾟｰﾄ)、退職者 1 名（生活支援員・ﾊﾟｰﾄ)、
転出 1 名（施設長）

Ⅲ　サービスとケアの内容

1　個別支援

支援計画書に基づき、日課の基本としていた散歩や作業の実施回数は前年同様。月 2 回の小外出（ｴﾝｼﾞｮｲﾌﾟﾗﾝ）は今年度も実施した。また、個別支援計画の内容については、ケース検討会を経て、年 2 回のモニタリングを実施し、再プラン、家族等へ説明した。

2　健康管理

日頃から、家族と連絡を密にして情報のやり取りを行った。体重測定は毎月実施した。希望者については、4月、10月の健康診断、5月の歯科検診、12月にはインフルエンザ予防

接種を行った。

3　家族支援

ライフサポート事業、垂穂寮日中一時支援との連携を中心として、延長支援を行った。

4　日課、余暇活動等

散歩（長距離、中距離、マンツーマン）、作業（園芸、アルミ缶つぶし、屋内手作業）、リハビリ等の日課に加え、年間行事として、出張カフェ、七夕会、夏の会、弦楽器コンサート、動物ふれあい、日帰りバス旅行、クリスマス会、節分の会を実施した。

5　外部講師による活動

毎月の活動として、レクダンス、絵画教室、リフレクソロジー、理学療法、隔月活動として、折り紙教室を実施した。

Ⅳ　防災並びに交通安全

1　防災　　毎月1回の火災、地震に対する避難誘導訓練を実施した。

2　交通安全　　公用車による事故、交通違反はなかった。

Ⅴ　苦情とその対応、並びに、虐待と思われる事案に対する対応など

1　苦情　0 件

2　ヒヤリハット　29 件

3　事故　51 件　　転倒事故がもっとも多かった。

Ⅵ　家族や地域

1　家族

年2回の支援計画説明のための個別面談、送迎時の情報交換、毎月開催の家族会への参加、年2回の行事（夏の会、クリスマス会）への招待、バス旅行、毎月発行の家族便りにより交流や情報提供等を行うことができた。

2　地域

障害者自立支援協議会の部会、利用者に関する他事業所出席のケア会議に出席した。

Ⅶ　実習生やボランティア

1　実習生　　受入実績なし

2　ボランティア

計2名、1名は延52日、毎週月曜日の配膳ボランティア、1名は延6日、島田市社会福祉協議会を通して受け入れた高校3年生。

Ⅷ　環境整備（建築、改修、修繕等を含む）

裏側フェンス出入り口・階段設置工事、ホールテーブル天板張替え工事を行った。体重計、業務用冷蔵庫、湯沸かし器を買換えた。

Ⅸ　職員研修

内部研修1回、外部研修参加日数延34日

Ⅹ　その他

なし

2017(平成29)年度事業報告

生活介護事業所
ケアセンターかたくりの花

Ⅰ　活動方針並びに課題

1　活動方針について

法人が掲げる理念並びにリニューアルプランに沿って事業を実施した。
毎朝の職員のミーティング時にサービス提供指針の読み合わせを行い、サービスの基本について浸透を促進した。

2　課題

(1) 3 年前一日平均利用 23.5 名と常時定員を超過していたが毎年徐々に他事業所へ移行し一日平均利用は 17.8 名となり空間的に支援しやすくなったが個々のニーズには応えるには職員体制が不十分だった。

(2) 職員 3 名入れ替えに伴う職員体制の弱体化については業務の洗い出しを行い、年間の全体支援計画書や職員の業務分掌を作成したが各利用者の支援の詳細までは表す事が出来ず支援の継承、統一化は不十分だった。

Ⅱ　利用者と職員の状況

1　利用者について

(1) 6 月、1 名、
他事業所への移行支援を行い待機者の為に利用枠を確保する事が出来た。

(2) 新規利用者受け入れなし

年　間	開所日数	総利用者数	1 日平均利用者数
	253 日	4,511 名	平均　17.8 名

1 月から 3 月は長期入院、長期ショート利用、体調不良により欠席する方が多かったがインフルエンザの方は利用者 1 名だった。

2　職員について

2015 年度ベテランの 3 名の職員が異動や退職で建て直しに苦慮し 2016 年度 3 名、2017 年度 4 名退職しその都度補充したが体制は整っていない。

Ⅲ　サービスとケアの内容

1　サービスについて

(1) 利用日、営業時間について
年間で開所日数は　253 日、延べ　4,511 名の方が利用した。

(2) 送迎について
利用者の安全・利便性を確保するため 3 台の車で実施し可能な限り希望時間等に添えるようにした。

2　ケアについて

生活介護の目的を踏まえた個別支援計画になっているか会議にて見直しを行った。
動作法、リフレクソロジー、スヌーズレンを行い、行事も予定通り実施。利用者会議を 9 回行い、自己決定支援を行った。

Ⅳ　防災並びに交通安全

1　防災

(1) BCP 事業継続計画を作成し災害時には可能な限り事業を継続する体制を整え、災害用備品を購入した。
(2) 防災訓練を毎月行い、11 月施設防災の日は発煙筒で火災報知機のチェックを行い水消火器で消火訓練を行なった。

2 交通安全

法人で開催する交通安全講習会に参加。大きな事故等は無かったが施設前の公道交差点でスピードを出す車が以前より多く、出入りの際はより注意が必要となった。

Ⅴ 苦情とその対応、並びに、虐待と思われる事案に対する対応など

苦情や要望に関しては、誠実に対応し、リスクマネジメントは日常的なヒヤリハットをケース記録から集計し多くを拾い出すことが出来、事故は起きなかった。
虐待について虐待防止委員会を全体会議の学習会の時間にて行い話し合いや学びを行った。

Ⅵ 家族や地域

1 家族との交流について

連絡ノート及び施設だよりにより､利用者の様子について情報を共有化するよう努めた。
保護者会を 2 カ月に 1 回実施し、保護者研修会は職員確保出来ず対応難しく中止した

2 地域との交流について。

施設の行事クリスマス会に参加を呼び掛けたが高齢化の為か参加者はいなかった。

Ⅶ 実習生やボランティア

1 実習生の受け入れ

藤枝・吉田特別支援学校　職場体験実習 7 名

2 ボランティアの受け入れ

アルム珈琲店　岩本造園　そば打ち

Ⅷ 環境整備（建築、改修、修繕等を含む）

1 スヌーズレンで使用するサイドグローを購入した。
2 サンシェードは予算的に難しく断念し農業用寒冷紗で代用した。
3 修繕に関してデイ室の雨漏り補修、障害者トイレの便器ひび割れ交換工事や建具の不具合の修理を行い、防犯対策として玄関自動ドアをテンキ―式にした。
4 職場環境は法人内の他事業所を参考に業務の見直しを行ったが、職員不足により時間外勤務を減らすことは難しかったが以前よりは減少し、持ち帰り仕事は禁止とした。

Ⅸ 職員研修

1 法人外の研修には数回しか参加できなかった。
2 法人内の研修は現場が許す範囲で積極的に参加した。
3 毎月の全体会議にて 30 分の職員研修を行った。

Ⅹ その他

1 島田市運営部会、くらし部会、重心ネットワーク等サビ管が出席する外部会議が増えた。
2 記録については入力した支援記録を多方面に活用する事が出来ている。

2017(平成29)年度事業報告

就労継続支援Ａ 型事業所
ワークセンターカサブランカ

Ⅰ　活動方針並びに課題

1　活動方針

法人が掲げる基本理念及び事業計画に沿って事業を実施した。

2　課題

（1）関係機関との連携については、市、相談機関、ハローワーク、障害者就業・生活支援センター等とケア会議を開催し、情報共有、連携に努めた。

（2） 一般企業への就労については、１人(精神障がい)が清水テクノカレッジの委託訓練を受けた後、前職の技能を活かすことができる一般企業へ就労することができた。引き続き定着支援を継続していく。

（3）当事業所での作業が困難になってきた３人の方が、それぞれA型事業所、B型事業所、自宅での生活に移行された。また、生活困窮の方については、家庭裁判所に補助開始手続きを行い、８月から補助が開始されている。

（4）新たに、障がい者雇用に積極的に取り組まれている一般企業の方々のネットワークに参加することとなり、今後、精神障がいの方の社会復帰に活かしていきたい。

（5）作業環境の整備については、夏の熱中症対策として、作業場の鋼板屋根に遮熱塗料の塗装工事を実施した。(熱中症に罹患した方はいなかった。)

Ⅱ　ご利用者と職員の状況

1 利用者

定員15名　登録者　15名（男性14名、女性1名）

開所日数　246日　　延利用者数　3,249人（1日平均13.2人）

・新規利用者 3人（精神1人、知的1人、高次脳機能1人）

・契約終了者 4人（一般就労へ移行(精神)　1人、就労継続Ｂ型へ移行(精神)　1人
他就労継続Ａ型へ移行(身体)　1人、自宅生活(精神)　1人）

2　職員

施設長（嘱託）1名、サービス管理責任者（正職）1名、
生活支援員（パート職員）1人、職業指導員（嘱託）2名

Ⅲ　サービスとケアの内容

1　就労継続支援Ａ型事業

（1）就労継続支援A型事業所として運営を行い、雇用契約（実働4時間）に基づき、就労の場を提供し、夏場や年末年始の繁忙期には時間延長を行った。

（2）一般就労への知識、能力が高まった利用者に対し、一般就労移行への支援を行った。今年度は、1 人の方が一般企業へ就職することができ、就労後も定期的に企業を訪問し、困りごとの相談等の支援を継続している。

（3）今年度も島田市から資源類中間処理業委託を受け事業を実施した。
大きなトラブルもなく順調に事業を遂行することができた。容器リサイクル法に基づくペットボトル及びビン類の品質検査では、当年度もＡランクの評価をいただいた。

2　健康管理

例年どおり、年1回の健康診断を受診し健康状態の把握に努めた。

また、10月には歯科衛生士による口腔ケアとブラッシング指導を行った。

3　教養娯楽

委託業務遂行に支障のない範囲で季節の行事、一泊旅行を実施した。

Ⅳ　防災並びに交通安全

防災については、火災や地震等の災害発生時に安全かつ迅速に避難するため、毎月の防災訓練に加え、法人の緊急時連絡訓練、11月には自主消防訓練を実施した。また、利用者・職員全員による消火訓練を行い、消防署への通報訓練も併せて実施した。

交通安全については、日頃から交通安全への声掛けを行い、3月には、島田警察署の交通指導員による交通安全教室を開催した。年間とおして、利用者・職員に交通事故はなかった。

Ⅴ　苦情とその対応、並びに虐待と思われる事案に対する対応など

苦情　2 件、事故　13 件、ヒヤリ　19 件、虐待　0 件

苦情は、利用時間外の利用者同士のトラブルから苦情に繋がったものである。

事故、ヒヤリは大きな事故に繋がることはなかったが、今後もご利用者の体調管理、作業環境を整備するなど、事故防止に努めていきたい。

虐待と思われる事案は無かったが、職員の意識を高めるため事業所内でのセルフチェックに努めたい。

Ⅵ　家族や地域

1　毎月発行する施設便り、年2回のモニタリングでご家族と面談して情報共有を図った。

2　地域の方々との直接的な関わりは少ないが、積極的な「あいさつ」を心掛け、島田市主催の「啓発事業」や「島田市にこにこクリーン作戦」に参加し通勤路の清掃奉仕を行った。また、法人内外の関係施設及び機関と連携をしながらご利用者の状況に応じた最適なサービスや社会資源を紹介し、本人の希望する生活への支援を行った。

Ⅶ　実習生やボランティア

1　実習生

利用希望の実習生15人（うち精神障がいの方が12人）

3人の方が当年度利用開始、2人の方が次年度利用開始となっている。

藤枝特別支援学校生徒 1人が実習を行った。

2　ボランティア

繁忙期のボランティアの受け入れについて、静岡県社会福祉協会、島田市社会福祉協議会へ依頼したが受け入れには至らなかった。

Ⅷ　環境整備

作業環境の整備については、暑さ対策として鋼板屋根の遮熱塗料の塗装工事を実施し、熱中症予防に努めた。

Ⅸ　職員研修

支援の質の向上を目的に、法人内の研修や関係機関が開催する各種専門研修に積極的に参加し、その内容については職員会議等において全職員で情報を共有した。

2017（平成 29）年度事業報告

就労継続支援Ｂ型事業所
ワークセンターコスモス

Ⅰ　活動方針並びに課題

１　活動方針

法人が掲げる理念や事業計画、運営規定に従って実施した。

２　課題

(1) 長期的なコスモス建設計画の作成

現在のコスモスの建物は島田市が昭和５９年に建設から借用中。建物の耐震性はあるものの、経年劣化により、今後建て替える必要がある。毎月のコスモス職員会議で話し合いを行い、施設単位での長期的な建設計画と建築費用積立金の計画を作成した。今後は就労部会で検討して、中長期的な計画を作成したい。

(2) 職員の支援スキルアップ

ご利用者が就労移行支援事業所や就労継続支援Ａ型に移行する事が出来るよう、職員のスキルや知識関係機関とのつながりを強化する事を計画した。方法として、同法人の就労継続支援Ａ型へ職員全員とご利用者１名が実習に行き、就労継続支援Ａ型職員の支援を学んだ。実習後、毎月行っているコスモス職員会議で実習報告をした。結果、学んだ支援の一部をコスモスで実際に取り入れた。又、業務マニュアル「利用者支援のあり方」に文章として、反映させた。

Ⅱ　ご利用者と職員の状況

１　ご利用者

定員 20 名、登録者 22 名（男性 11 名、女性 11 名）
開所日数 253 日（月平均 21 日）、延べ利用者人数 5138 人（1 日平均 20.3 人）
年間利用率 101.5%

２　職員

管理者兼サービス管理責任者（正職・兼務）１名
生活支援員（正職）１名、（パート）２名　職業指導員（正職）２名、（パート）３名
職業指導員兼事務員（パート）１名　（計 10 名）

Ⅲ　サービスとケアの内容

１　生産活動

利用者の障害特性に合った対応を心掛け、意思及び人格を尊重したサービスの提供に努めた。

２　健康管理

毎月の体重及び血圧測定、希望者による年２回の健康診断を実施した。

３　各種行事

４月:勤続表彰式　５月:体操訓練・料理訓練　７月:工場見学会　８月:スポーツレク
10 月:サービス業見学旅行　11 月:餅つき　12 月:人権擁護講座・リース作成
１月:成人を祝う会　３月交通安全教室・公共機関利用訓練

４　就労支援　　希望者がいなかった為、行わなかった。

Ⅳ　防災並びに交通安全

1　消防計画に基づき、毎月火災と地震の避難訓練を交互に実施した。また、4月、12月には総合防災訓練を行った。

2　法人合同防災会議の決定に事項に従い、安否コールシステム訓練を行った。又、災害時用のテントと備蓄品を購入した。

3　法人主催の交通安全教室には参加できなかったが、公用車運行記録表を作成し運行上の管理を行うとともに不具合箇所の把握をした。

公用車事故　1件。（物損事故までは至らなかった）

Ⅴ　苦情とその対応、並びに、虐待と思われる事案に対する対応など

1　苦情 2 件、苦情ヒヤリ 1 件。法人が定める指針に沿って対応した。

2　事故 4 件、ヒヤリ 14 件。事故については誠意をもって迅速に対応した。
ヒヤリについては、職員全員が危機意識を持ち業務にあたることを再確認した。

3　虐待と思われる事案は無かった。12 月にご利用者ご家族を対象に人権擁護講座を開催した。

Ⅵ　家族や地域

1　ご家族の状況を理解し、保護者と良い関係の中でご利用者の支援を行うことができた。

2　年２回（４月・９月）家族会を開催し、業務内容の進捗状況やご利用者の利用状況等をお知らせするとともに、ご家族からの要望等を伺う場を提供した。

Ⅶ　実習生やボランティア

1　各種学校の体験学習や福祉体験実習
島田市立看護専門学校 12 名　　島田市島田第 1 中学校 2 年生 2 名
藤枝特別支援学校高等部 2 年生 1 名　　垂穂寮ご利用者体験 1 名

2　特別支援学校の実習生
藤枝特別支援学校中等部 3 年生 2 名
藤枝特別支援学校高等部 2 年生 2 名　　3 年生 1 名

3　ボランティア
島田市第 2 地区民生委員　　作業補助ボランティア 3 名

Ⅷ　環境整備（建築、改修、修繕等、備品購入等を含む）

1　作業室壁の塗り替え・作業室床の張替えを行った。
作業室の雨漏り部分 3 ヶ所に対して、2 回の工事を実施し、雨漏りが止まった。

2　事務室パソコン（4 台）を購入した。

Ⅸ　職員研修

1　合計 52 回の法人内部研修や外部が主催する研修等に参加し、職員のレベルアップに務めた。

2　人材育成の一環として、相談従事者初任者研修へ 1 名参加した。

3　支援スキルアップの為に、内部講師を招き、知識を向上させる予定だったが、講師との都合がつかず、実施しなかった。

Ⅹ　その他

1　中長期的な建設計画の素案を作成し、建設積立金資産 550 万を積立した。

2017(平成29)年度事業報告

就労継続支援Ｂ型事業所
ワークセンターなのはな

Ⅰ　活動方針並びに課題

1　活動方針

法人が掲げる基本理念に沿い、事業計画及び運営規程に従って実施した。。

2　課題

（1）新施設での運営について

2017 年 4 月 20 日、株式会社塚本設計、大河原建設株式会社より建物が引き渡された。敷地面積 936.72 ㎡、構造鉄骨造平屋建、建築面積 537.72 ㎡、延床面積 499.5 ㎡、事業費（工事・設計）合計１億５７７３万４千円。4 月 26 日家具搬入、4 月 27 日献堂式を経て 5 月 1 日より定員 30 名で新施設での営業を開始した。12 月 1 日には地域の皆様に建物内覧会と感謝祭への招待を行った。

訓練作業室が二か所になり、静と動の作業形態を提供し、ご利用者各々の特性や目標に合った環境での支援を行うことができた。多目的室は主に食堂として活用したが、創作等の行事や多数の見学者対応においても活用できた。又、職員休憩室を設けたことにより時間差での休憩体制を整えることができた。職員配置の課題についてはエリアごとリーダー職員を配置し、責任を持って部下の指導を行うとともにご利用者への支援に漏れのないよう気を配った。企業よりの受託が増加し、ご利用者・職員ともその期待に応えていくことは大変ではあったが、企業からの信頼を得ることができた。

2018 年 2 月 27 日 3 時 10 分頃、敷地内から出火。鉄骨平屋建て施設の荷さばき場 113 ㎡と、公用車（軽トラック）2 台を焼いた。ケガ人は無し、近隣住宅への延焼無し。ご家族、島田市、近隣住民、自治会、企業へ火災発生を連絡し謝罪をした。2 月 27 日から 3 月 2 日まで臨時休業し、片付けと事業再開のための準備をした。3 月 5 日、敷地内に設置したプレハブ仮施設で事業を再開した。

3 月 7 日、保護者説明会を開催し、ご利用者を含めたご家族へ不安を与えてしまったことを謝罪し、発生から今後の運営、並びに対策と再発防止について説明をした。

出火原因については、消防は「放火」と推定。警察は「失火または放火」と特定はされなかった。被害総額については建物損害額・自己所有備品等損害額・受託品賠償額の総額になるが、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社により現在鑑定中である。

今後の対策として、建物内に余分な在庫を保管しない、車両は建物から離して駐車する等自主点検を行うとともに、防犯カメラの設置、人感センサーライトの設置等、再発防止策が確実かつ継続的に実施されるよう定期的に効果を確認していく予定である。

事故報告については市・県とも 2 月 27 日に口頭で報告し、3 月 12 日に書面により正式に報告書を提出（郵送）した。

(2) 各々の目標や能力に合わせた活動について

全ては実践計画書に沿って計画的に進められた。

手洗いの習慣や身だしなみの確認は担当職員の責任の下に行い、ほぼ全員が身についた。作業環境を工夫し特性に配慮した環境を確保したことにより各自が集中して作業に取り組み、作業能力が向上した。

行事においては、個別の能力や興味に応じたグループ活動とし、ご利用者同士での計画・実践を支援し、達成感を味わうことで自信につなげた。また、自分の楽しみや仲間と楽しむ喜びを味わい、「個の楽しみに繋げる」目標は達成できた。

Ⅱ　ご利用者と職員の状況

1　ご利用者

定員 4 月 20 名、5 月 1 日より 30 名、登録者 26 名（男性 15 名、女性 11 名）
開所日数 250 日（月平均 21 日）、延べ利用者数 6404 人（月平均 25 人）
利用率 87.7%

2　職員

管理者（正職）1 名　　主任サービス管理責任者（正職）1 名
生活支援員（正職）1 名　（パート）1 名　　職業指導員（パート）6 名
職業指導員兼事務員（正職）1 名　　計 11 名

Ⅲ　サービスとケアの内容

1　生産活動

作業室①②ではご利用者の特性や目標に合わせた人員配置をし、主体的に活動を行う支援をした。受託量が増加し、企業の期待に応えることに多少の負担はあったが、皆で協力し作業収入アップにつなげた。

2　訓練

毎日の日課の中で衛生観念・身だしなみ等を習慣化する支援を行った。

3　相談及び援助

ご利用者本人よりの相談にはサービス管理者を中心にきめ細かい助言や援助を行った。また、ご家族及び生活支援センター、関係者と連携しチームでの支援を行った。

4　各種行事

目的別グループ活動では、電車・バスを利用した外出や創作体験、調理等、興味や能力に合ったグループでの活動を支援した。
11月の一泊旅行（伊豆稲取）ではご家族との交流も活発に行った。

5　就労支援

希望者には計画相談員と連携を取りながらハローワークへの申し込みを行い、求職活動を支援したが一般就労には結びつかなかった。

6　健康管理

月一回の体重測定及び血圧測定、希望者による年二回の健康診断を実施した。
感染症（感染性胃腸炎、インフルエンザ）に罹患したご利用者はいなかった。

7　全てのサービスは「個別支援計画」に基づいて行った。

Ⅳ　防災並びに交通安全

1　災害対応マニュアル、消防計画に則り毎月の防災訓練を実施した。また、年2回の消防署への通報訓練を行った。

2　法人合同防災訓練では携帯電話による年２回の連絡訓練（安否コール）を行った。
備蓄品については、期限切れ食品の廃棄を行ったが、年度末の火災被害により補充する余裕はなかった。

3　公用車運用については、公用車運行記録表を作成し、運行上の管理や不具箇所の把握をし、安全に努めた。

4　法人主催の交通安全教室への参加し、安全への意識を高めた。自動車事故は無かった。
5　2018年2月27日3時15分頃、敷地内で火災が発生した。自主点検表により終業後の点検は実施していたが、内容を見直す予定である。

Ⅴ　苦情とその対応、並びに虐待と思われる事案に対する対応など

1　苦情申し立ては無かった。
2　リスクマネジメントについては、事故報告書を回覧し職員会議で対応を話し合った。
事故８件（作業中の接触事故２件、利用者の突発的な行動１件、利用者同士の連鎖的行動３件、行事中の事故１件、火災事故１件）
3　虐待と思われる事案は無かった。虐待防止法について法人主催の虐待防止研修に参加し知識を得た他、サービス提供指針の読み合わせを職員会議で行い人権への配慮の重要性を話し合った。また、職員セルフチェックを行い、自己の対応を振り返る機会とした。

Ⅵ　家族や地域

1　行事や送迎時にご利用者のご家庭での様子や事業所での様子等の情報交換をした。
2　年２回「保護者連絡会」を開催し、事業の進捗状況の説明とご家族よりの要望を伺った。
3　12月１日、施設内覧と、バザー・餅つき等のイベントを行い、地域の皆様を招待した。

Ⅶ　実習生やボランティア

1　実習生
藤枝特別支援学校高等部3年生2名、2年生2名、1年生2名
吉田特別支援学校高等部3年生1名　2年生1名
島田看護専門学校3年生　8名
浜松情報専門学校　こども保育科3年生　1名
2　ボランティア
島田市第3地区民生委員さん　作業の手伝い

Ⅷ　環境整備（建築、改修、修繕等を含む）

1　2017年4月20日、株式会社塚本設計、大河原建設株式会社から建物が引き渡された。
2　2018年2月27日の火災により、職員室を残し全てのものが使用不可となったため、事業はプレハブ仮施設へ移動し、家具・備品等は一時保管場所として市内倉庫を賃借した。
改修工事は2018年5月下旬～8月下旬まで3か月を要する予定である。

Ⅸ　職員研修

1　法人内部研修及び外部が主催する研修に参加し、報告書は職員全員に回覧した。
年度当初の研修計画に則り全員が研修に参加することができたが、人員配置の都合で参加できなかった研修もあった。

Ⅹ　その他

1　静岡銀行より 78,000,000 円を利率 0.49%（変動金利）25 年返済で借り入れた。
2018 年 3 月 31 日残高 75,140,000 円。
法人よりの借入金 20,000,000 円は 2018 年度より返済予定である。
2　前年度入札により購入した家具・備品の代金は備品等購入積立金の一部（3,500,000 円）を取り崩して支払いに充てた。

2017（平成 29）年度事業報告

就労継続支援Ｂ型事業所
ワークセンターあさがお

Ⅰ　活動方針並びに新年度の課題

1　活動方針

法人が掲げる「ＷＩＬＬ」を元に、事業計画に沿って実施した。

2　課題

(1)ご利用者の障がい状況の多様化に応じた職員の専門性の向上

①聴覚障がい者の方とのコミュニケーション手段として施設長は島田市が主催する「手話奉仕員養成講座」を受講し、学んだことを折に触れ職員に伝え共有した。当事者とのコミュニケーションにはなるべく手話を使うことを心がけた。

②「精神疾患の理解」施設長、「自閉症支援講座」安松職員がそれぞれに参加し、資料を他の職員に配布し、職員会議で学びを共有した。年度末に「自閉症シンポジウム」へ参加し専門家の講義を受けると同時に保護者の思いも知る機会が持てて、新年度へ向けての支援の方向性を確認できた。

(2)職員が安心して働くことができるような労働環境の構築

①休憩時間の確保については十分な状態ではなく、1月、2 月と職員の退職が続き人手不足となり職員への業務負担が増した。有給は職員間で協力し計画的に取得することができた。

②大きな備品の購入としてはプリンターとコピー機の故障が相次ぎ新しいものを購入および、リース契約を結んだ。不具合もなく活用している。

③研修で得た学びを職員会議で共有し、支援に生かすことができた。日々の業務の中で職員間でカバーし合う姿勢があり作業を効率よく進めることができた。

(3)作業スペースの確保とハード面での環境整備

①整理整頓に努め既存のスペースをより有効に活用するよう日々心掛けた。

②1月の理事会で移転先の借地が承認を得られ建設予定地が決定した。本部を通じて小桜建設様のプランニングを元に成果物受取の形で基本設計、地盤調査書等補助金申請に向けて必要な資料の一部を取得することができた。

Ⅱ　ご利用者と職員の状況

1　ご利用者

定員 20 名、登録 20 名（男性 14 名、女性 6 名）
開所日数 251 日　延利用者数 4855 人　利用率 96.7％

2　職員

施設長・サービス管理責任者　（正職・兼務）1 名
生活支援員（正職）1 名、　　職業指導員兼事務員（準職）1 名
職業指導員（パート）3 名、職業指導員補助（パート）2 名

Ⅲ　サービスとケアの内容

1　年間 2 回のモニタリングと保護者連絡会を行いご利用者の現状の共有と理解を深めた。必要に応じて関連期間と連携しケア会議等を開催し支援に反映さるように努めた。

2　様々な作業内容を提供し、ご利用者のスキルアップに繋がるように努めた。

3　受注先により収入の増減はあったが、新規事業開始等の努力で大幅な減少はなくほぼ昨年度同様の受注売上を維持することができた。

4　ご利用者の社会参加及びスキルの向上に繋がるよう計画を立て毎月１回余暇支援を実施した。
5　ハローワーク主催のジョブフェアに1名参加同行。就職希望者に圏域の求人情報を提供した。
6　毎月、体重・血圧測定、及び記録。希望者の健康診断実施。施設内衛生管理に努めた。
7　全てのサービス提供は、「個別支援計画」に基づいて行った。

Ⅳ　防災並びに交通安全

1　年間を通して火災発生はなく安全に業務を遂行することができた。
2　1～3 月の防災訓練の実施ができなかった。年 2 回の消防設備点検を実施した。
3　公用車の運行に関しては年間を通して事故はなかったが、運転に対する苦情が1件あった。

Ⅴ　苦情とその対応、並びに、虐待と思われる事案に対する対応など

1　公用車の危険運転に対する苦情が1件FAXにより本部に寄せられた。
2　本部からの連絡に迅速に対応し、謝罪に伺い受け入れて頂いた。公用車の安全運行の再認識する良い機会となった。
3　ヒヤリハットの書式に馴染めず記入件数が少なかった。簡単に記録できる書式の必要性がある。
4　事故・虐待はなかったが年末インフルエンザの感染者が5名発生。
5　全員年間１回以上の研修に参加。事業所独自の一日研修実施（市内のNPO法人視察見学）

Ⅵ　家族や地域

1　家族や生活の状況を理解し、保護者とのより良い関係の中でご利用者の支援を行った。
2　年2回「保護者連絡会」を開催。10 月の連絡会は座談会形式で会食をしながら親睦を深めた。。
3　初倉まつり散策や民生委員との交流会等を通して地域の人々との関わる機会を持った。

Ⅶ　実習生やボランティア

1　今年度は学校関係の職場体験実習者の受け入れはなかった。
2　吉田特別支援学校高等部より 4 名の実習受け入れ、内 1 名は 2018 年4月より利用開始予定。
3　地域の 3 団体、2 名の個人の方々が定期的にボランティアに訪れてくれた。

Ⅷ　環境整備（建築、改修、修繕等を含む）

1　日々整理整頓に力を入れ作業スペースの確保に努めた。
2　倉庫内の整理整頓の担当者を決め実施した。作業資材が増えておりスペースが不足している。
3　災害時避難経路確保の為の改修及び修繕は現状維持とし行わなかった。
4　法人本部の指揮の下理事会の承認を得て事業所建築用地が決定した。

Ⅸ. 職員研修

1　事業所の一日研修として、島田市内のNPO法人の施設の視察研修を実施した。
2　各職員年間1回以上、外部及び法人主催の研修に参加する機会を持つことができた。
3　研修で得た知識や情報、学びを職員会議や資料配布で共有した。
4　聴覚障がいのご利用者の資格取得に際しサポートした。職員の新規資格取得者は無し。

2017（平成 29）年度事業報告

就労継続支援Ｂ型事業所
主・ワークセンター希望の家
従・ワークセンターふれあい

Ⅰ　活動方針並びに課題

１　活動方針

法人が掲げる理念や事業計画、運営規程に従って実施した。

２　課題

ご利用者の高齢化による今後の通所については、ご本人や保護者の意向を尊重し、日常生活への総合的な支援を含みながら、法人内外の高齢者施設への入所、ショートスティ利用、デイサービス利用等を市福祉課や高齢者事業所等と連携をとり、ご家族共に安心して生活できる見通しを立て進めていった。

Ⅱ　ご利用者と職員の状況

１　利用者について

希望の家　利用者　定員　20 名　登録利用者　19 名　男性 11 名、女性 8 名
ふれあい　利用者　定員　20 名　登録利用者　16 名　男性 12 名、女性 4 名
年間開所日数　252 日　　延利用者数　8,304 人　　利用率　91.5%

２　職員について

6 月 1 日より施設長が交替した。希望の家 9 名、ふれあい 6 名の計 15 名となる。
（内訳）施設長(兼務)1 名、サービス管理責任者（兼務）1 名、主任生活支援員 1 名、
生活支援員（施設長補佐嘱託）1 名、生活支援員 4 名、職業指導員 7 名

Ⅲ　サービスとケアの内容

１　ご利用者の体調や健康管理については、保護者とともに共有しながら進められ、年 2 回の健康診断、歯磨き指導、インフルエンザ予防接種等の支援は予定通りできた。大きく体調を崩す方はいなかった。

２　ご利用者、保護者からの相談や訴えに対しては、法人の生活支援センター相談員や島田市福祉課担当者の協力を得ながら取り組んだ。

３　年間開所日は 252 日で、日帰り外出訓練をはじめ、年間予定通り滞りなく進められた。

４　就労支援については、就職を希望するご利用者はいなかったため、行わなかった。

５　その他、個別支援計画に基づき支援を行った。

Ⅳ　防災並びに交通安全

１　6 月と 11 月に消防署職員の協力による総合防災訓練を実施した。また、毎月それぞれの事業所での避難訓練も実施した。

２　保存食等の災害用備蓄品を備えているため、点検を行い期限切れの備蓄品等の更新を行った。

３　島田警察署の交通指導員による交通指導訓練を年 3 回それぞれの事業所で行った。
実際の信号機を使っての実地訓練も行い、ご利用者の交通マナーの向上に努めた。

Ⅴ　苦情とその対応．並びに、虐待と思われる事案に対する対応

１　虐待のマニュアルの整備を行い、マニュアルの読み合わせも職員会議にて行った。
職員には、チェックリストに基づき自己評価を行ってもらった。年度末に虐待防止委

員会を開催し、年度内の総括を行ったが、虐待と思われる事案はなかった。

2　苦情はなかったが、ご利用者同士のトラブルによる事故、ヒヤリは常に起っていて、大きな事故につながらないように、適時・適所に職員を配置して見守りを行った。職員会議において、事故防止マニュアルの読み合わせを行い、職員の意識向上と注意喚起を促した。

苦情 0 件、事故 8 件、ヒヤリ 27 件

Ⅵ　家族や地域

1　家族

隔月にそれぞれの事業所で保護者会が開催され、施設長・主任が出席し、事業の計画内容の報告や利用者の様子、保護者からの要望等を伺い、情報の共有を行った。年間を通して、保護者が参加する行事が数回あり、職員との交流も図っている。

2　地域

地域で実施するバザーや市の福祉大会への参加、また同地区内での福祉施設との交流行事へ積極的に参加した。

Ⅶ　実習生やボランティア

1　実習生

特別支援学校の実習生受け入れ、また、説明会等にも参加し、受入れについての取り組みを勧めた。

2　ボランティアの受け入れ

年間を通して奉仕団体や地域のボランティアの受入れを行った。毎週ボランティアに来てくださる方もいて、自主性を重んじ受入れている。

Ⅷ　環境整備

1　ふれあいでは、完成した別棟にて昼食をとり、作業場所と分けることで、メリハリがつく活動ができた。

2　希望の家でパソコン１台を増やし、ふれあいでパソコン１台を更新した。大きな修繕や備品の購入はなかった。公共施設や住宅地の近くに所在するため、引続き建物の美観、周辺の整備、施設内の整理整頓に努めたい。

Ⅸ　職員研修

1　事務職員が交替したため、優先的に事務の経理入門・基礎講座、予算管理、決算実務講座等を受講して経理事務の習得に努めてもらった。

2　法人内の新人・中堅・リーダー・施設長研修に参加、また、希望の家独自の研修として講師を招き自閉症・強度行動障害に関する基礎的な知識を学んだ。

Ⅹ　その他

2017（平成 29）年度事業報告

就労継続支援Ｂ型事業所
ワークセンターやまばと

Ⅰ　活動方針並びに課題

１　活動方針

法人が掲げる基本理念に沿って事業を実施した。

２　課題

（1）　ご利用者、ご家族の要望をモニタリングで聞き、関係機関と連携を取りながら取り組むことができた。(移動支援、自主製品に携わる等）さらにステップアップできるように引き続き努める。

（2）　自主製品事業は、昨年同様イベントに積極的に参加した。ご利用者も販売に関わり、会計もわかりやすく表示し計算することができた。

「カフェこむぎ」にご利用者が 2 か月ごと毎週木曜日に接客に携わった。

パンについてはマンネリ化を防ぐため「今月の限定パン」を設け製造、販売した。

受託作業は、新規に 1 社増やし合計 3 社となった。受託収入は前年度よりやや下がったが下請作業先との信頼関係も築くことができている。作業棟内も無駄なものは置かず、整理整頓が定着しつつある。

Ⅱ　ご利用者と職員の状況

１　ご利用者

定員 20 名、登録 20 名（男性 14 名、女性６名）　　平均年齢 38 歳

開所日数 256 日（月平均 21.3 日)、延べ利用者数 4700 人（月平均 18.4 名）

平均利用率９２％

２　職員

管理者（嘱託）１名　　サービス管理責任者（正職）１名

職業指導員（正職）２名　（パート）２名　（嘱託）１名

生活支援員（準職）１名　　計８名

Ⅲ　サービスとケアの内容

１　相談及び援助

年２回のモニタリングや必要に応じて個々に面談をし、ご家族及び生活支援センターと連携し支援を行った。

２　生産活動

下請作業先が１社増え作業内容も増加したが、それぞれ任された作業は正確に仕上げることができた。

３　訓練

作業、行事等を通して日常生活に必要な知識を身につけるように支援した。

４　就労支援

A 型事業所、企業に１名見学に同行したが就職には結び付かなかった。

５　各種行事

年間行事計画に沿って目的を定めておこなった。

４月　ハイキング　　５月　調理実習　　６月　ふれあい運動会　　７月　調理実習

８月　流しそうめん、わかふじスポーツ大会参加　　10 月　ふれあい広場、40 周年記念会　　11 月　スポーツ教室、一泊旅行　　12 月　クリスマス会　　１月　調理実習

３月　ボーリング大会　　毎月　誕生会　　各月　音楽教室

6　健康管理
月１回「健康の日」を設け、体重、血圧測定を行った。希望者による年２回の健康診断インフルエンザの予防接種を実施した。今年度はインフルエンザ罹患者はゼロだった。
年１回歯科医師による歯科検診を実施した。
7　すべてのサービスは「個別支援計画」に基づいて行った。

Ⅳ　防災並びに交通安全

1　災害対応マニュアル、消防計画に則り毎月防災訓練を実施した。市防災課職員により消火器の使い方を学んだ。法人防災訓練では、携帯電話による訓練を行った。
2　公用車の運転には十分注意をしていたが１件自損事故（ブロックに接触）があった。
3　交通指導員による交通安全教室を行った。自転車通勤者の事故もなかった。

Ⅴ　苦情とその対応、並びにリスクマネジメント

1　上半期に自主製品のパンについて苦情３件あった。苦情を寄せられた方には誠意をもって対応した。下半期は苦情０件。事故５件（転倒、薬が落ちていた）ヒヤリハット２件職員会議で未然に防ぐよう話し合った。
2　虐待と思われる事案は無かった。

Ⅵ　家族や地域

1　家族の状況を理解し、保護者との良い関係の中でご利用者の支援を行うことができた。
2　保護者会を年２回開催し、事業内容のお知らせや意見交換の場を持った。。
1 回は「親亡きあと」と題して話し合いした。また、「ワークセンターやまばとだより」を毎月発行しご利用者の様子等をお知らせした。
3　地域交流会、ふれあい広場に参加し、地域の方たちと触れ合うことが出来た。
坂部小学生との交流も４年目を迎え充実した時間を過ごすことが出来た。

Ⅶ　実習生やボランティア

実習生	清流館高等学校福祉課（1 年生）	3 名
ボランティア	夏、春休みに坂部小学生 16 名、教師１名 作業繁忙期に保護者の方にもお願いした。	

Ⅷ　環境整備

パン工場の古い照明器具を撤去した。
建物入口に防犯灯を設置した。

Ⅸ　職員研修

法人内部研修には参加できたが外部研修には参加する機会が少なかった。次年度は参加するようにしたい。
毎月の職員会議では、聖書、サービス提供指針について話し合いをもった。

Ⅹ　その他

（福）静岡県共同募金会より機器整備事業として 1,950,000 円助成決定し、平成 30 年 12 月に送迎車購入予定である。

2017(平成29)年度事業報告

多機能型（ワークセンターさくら）
就労継続支援Ｂ型事業所
ワークセンターさくら

Ⅰ　活動方針並びに課題

１　活動方針

法人が掲げる基本理念に沿って事業を実施した。

２　課題

（１）利用者について

法人以外の事業所が計画相談に入り、新規利用者が増えた。しかし、特別支援学校の卒業生の利用は無かった。平成 30 年になり吉田町や島田市等に新規Ｂ型事業所ができた。今後はワークセンターさくらの特徴（強み）を活かし、利用者確保に努めたい。

（２）工賃支給について

パンの製造に係わる利用者が少なかった。前年度は法人内の事業所に積極的に売りに出たが職員の負担が大きいため、全体的に製造量を控えた。パンに関わっていた正規職員が長期入院したこともあり、パンの売り上げが減少し工賃は減少した。

（３）あつまリーナ全体について

合同行事や情報交換、あつまリーナ会議を行った

Ⅱ　利用者と職員の状況

１ 利用者

定員 22 名、登録者 36 名（男性 22 名、女性 14 名）

延べ利用者数　4,966 名、年間開所日数 252 日、1 日平均利用者数 19.7 名

※新規利用者　9 名、退所者 6 名（他のＢ型へ 3 名、入院 2 名、死 1 名）

２　職員について

施設長 1 名（常勤兼務）、サービス管理責任者 1 名（常勤兼務）、生活支援員 1 名（常勤）、職業指導員 1 名（常勤）、職業指導員 3 名（非常勤）、事務員 1 名（常勤兼務）　合計 8 名

Ⅲ　サービスとケアの内容

１　全てのサービスは、面談及びモニタリングに基づいて、当事業所のサービス管理責任者が作成した「個別支援計画」によって行われた。

２　生産活動について

（１）下請作業

シーク㈱（エアコンの羽付け）、サンワネッツ㈱（ＤＶＤ解体）の作業も定着した。ニシダ㈱（洗濯用品組立等）、レック㈱（日用品雑貨袋詰め等）、石原水産㈱（ギフト箱詰め等）、大村醤油㈱（たれの袋詰め）等は昨年同様順調だった。また、作業の種類も増えたこともあり職員がどの作業も指導できるように３つの作業グループにし、１週間ごと職員が交代するようにした。

（２）自主製品作業

パン製造販売の活動は、町保育園及び放課後児童クラブに定期的に納品することができ

た。あつまリーナでは毎週2回（水・金）に販売をし、地域の会社等の予約注文を受け配達をした。

3　教養娯楽

生産活動に支障のない範囲で季節の催し物やレクリエーション、日帰り旅行などを実施した。6月から9月にかけて行事がないこともあり、クラブ活動（スィーツクラブ、ハイキングクラブ、ウォーキングクラブ）を行なった。あつまリーナ開所記念会とクリスマス会はマーガレットなど他の事業所と協力して合同で実施した。

Ⅳ　防災並びに交通安全

あつまリーナの防災計画及び地震避難計画を基にあつまリーナの事業所と合同で毎月防災訓練を実施した。2018年 2月には隣の「はあとふる」 2階に避難をした。また、送迎車全車にドライブレコーダーを設置し、安全運転に努めた。

Ⅴ　苦情とその対応、並びに、虐待と思われる事案に対する対応など

苦　情　　0 件。　　ヒヤリハット　　6 件（作業 4、送迎関係 1、他 1）

事　故　　20 件（作業 15、転倒 2、車 2、飛びだし 1）

虐待と思われる事案は無かったが、定期的な会議を開き確認をしていきたい。

Ⅵ　家族や地域

1　家族

施設便り（さくらだより）を毎月発行し、全利用者に配布した。隔月で保護者会を開催し、事業所内の様子や予定を報告し、保護者の方と意見交換ができるように努めた。

2　地域

清流館高校やキラリ高校、吉田特別支援学校の文化祭に参加し、パンの販売を行なった。吉田町ふれあい広場は、台風のため中止になった。

Ⅶ　実習生やボランティア

1　実習生

職場体験実習：吉田中学 6名、静岡福祉大学 2名

職場実習　　：吉田特別支援学校13名、清流館高校 4名

2　ボランティア

行事以外でのボランティアを得ることはできなかった。

Ⅷ　環境整備（建築、改修、修繕等を含む）

町内一斉清掃に参加した。

3月に懸案だった南側の庭に砂利が入り、歩道との段差が解消された。

Ⅸ　職員研修

法人研修部主催の研修に積極的に参加した。

外部研修には3件 3名の職員が出席した。

2017(平成29)年度事業報告

生活介護事業所
ケアセンターマーガレット

Ⅰ　活動方針並びに課題

活動方針は法人が掲げる理念に沿って、事業計画は運営規程に従って実施した。
大きな事故、ケガも無くご利用者の皆さん、毎日穏やかに楽しく通っていました。
今後の課題として、(1)団体活動になり個人のお楽しみ活動が出来なかった。個別支援メニューの充実を図りご利用者一人ひとりの要望に応えるようにする。
(2)新たな研修を探し専門的な知識の習得と、活動を楽しめるようなレク・絵画などの研修にも積極的に参加しレベルアップを図りたい。(3)今後も良い関係を継続していく。

Ⅱ　利用者と職員の状況

1　利用者について

（1）定員 20 名、現員 21 名、(男性 13 名、女性 8 名)
　　今年度 23 名で開始、年度途中女性 2 名契約終了（介護保険移行 1 名・他事業所 1 名）

（2）開所日数 251 日、総利用者数 4594 名、利用率 91.5%、1 日平均 18.3 名

2　職員について

施設長生活支援員（兼務）1 名、サービス管理責任者 1 名、正職員 1 名、準職員 2 名
パート職員 6 名、パート看護師 1 名、事務員 1 名（兼務)、合計 13 名の支援職員等で事業を実施する。

Ⅲ　サービスとケアの内容

1　個別支援計画について

各利用者､保護者との面談のアセスメントを中心に作成した個別支援サービス計画をもとに実施し、集団をベースにしながらも個別対応も重視し継続的な支援を行った。

2　健康管理について

健康調査票を基に家庭と密に連絡をとり､気になる体調については伝え早めの通院等をお願いした。健康診断、歯科検診は希望者に実施、また毎月体重測定を行い肥満対応や体調管理をし、その他衛生面での支援を行った。
最近花粉症の症状で鼻づまり、喉の違和感、目の痒み等を訴える方も増えてきた為、症状のある方には散歩時のマスクの着用をお願いし症状の軽減に努めた。

3　活動・教養娯楽について

通常の活動は午前散歩、午後作業を基本として行った。

・散歩は、ご利用者の体力や特性に配慮し長距離、中距離、短距離、個別グループに分かれ体力維持に取り組んだ。
・作業は、手工芸（ビーズ、刺し子、縫製作業、さおり織り、ミシン、紙すき）等の創作活動を中心に行い､作業所のDVD解体作業にもチャレンジし作業の幅を広げる。
・行事は、年間で計画を立て、利用者の要望を含めた社会体験外出や季節ごとの行事を取り入れて行った。昼食づくり、おやつ作り、レクダンス、音楽活動、など引き続き実施した。
・その他、小グループでの外出（プール、温泉、バス外出、買い物、お楽しみ外食等）を実施した。11月には保護者を含めた箱根への日帰り旅行実施。今後も個別支援計画を充実させ、出来る限り1人ひとりのニーズにあった活動を取り入れていきたい。

Ⅳ　防災並びに交通安全

年間を通じて、消防計画及び地震防災計画に基づき、防災訓練を実施。
地震・火災等の発生時、迅速かつ安全に利用者が避難できるように訓練を行った。
また津波を想定して、隣にある「はぁとふる」に避難できるように訓練を行った。
交通安全については、出発前、車の点検を実施し、安全運転に心掛けた。

Ⅴ　苦情とその対応、並びに、虐待と思われる事案に対する対応など

利用者及び保護者より、特に大きな苦情等は無かったが、今後要望等も含めてあった場合には、誠意を持って迅速に対応したい。
リスクマネジメントについては、ヒヤリハット・事故報告書であげられたものは、スタッフ全員で情報を共有し検証。再発防止に努めました。
また、問題行動のあるご利用者に関しては行政にも報告し情報を共有しました。

	苦情	事故	ヒヤリ	合計
各項目合計	0 件	5 件	68 件	73 件

Ⅵ　家族や地域

連絡ノートを作り、マーガレットと家庭での様子を伝え合い、また連絡事項を記入するだけでなく、保護者、職員の気持ちを伝え合うものとして活用した。
毎月「マーガレットたより」を発行し、行事やマーガレットの様子等を報告している。
保護者会は年3回開き、ご家族の意見や要望をお聞きしたり、マーガレットからの連絡事項を伝えている。
吉田町ふれあい広場は台風21号の為中止。吉田特別支援学校の「もえぎまつり」に参加、利用者作品の展示販売を行ない、地域の方々とのコミュニケーションの場を設けました。

Ⅶ　実習生やボランティア

実習生については、地元の中学校生徒5/22～24（吉田中学2年生4名）や高等学校の学生10/13～16（清流館高校1年生3名）の職場体験実習、介護実習また吉田特別支援学校の職場体験実習で2名生徒を受け入れた。
ボランティアについては、さおり織りの糸かけ、他ご利用者支援等をしていただき大変嬉しく思う。

Ⅷ　環境整備

施設整備等については、吉田町福祉課に相談と依頼をし「あつまリーナ」前庭の砂利を追加工事した。支援室には介護ベッドを導入し車いすご利用者が体を伸ばしたり、マッサージをした。また体調不良の方がすぐに休めるようにもした。また行動障害で自傷の激しい方が怪我をしないよう厚めのマットを購入しガラスの破損防止にも活用、支援負担の軽減とご利用者の安全確保に努めた。また活動終了後は清掃、整理整頓を心がけました。

Ⅸ　職員研修

支援員の研修　　感染症、虐待防止、権利擁護、後見人セミナー他に関する研修等
全体の研修　　新年度研修、法人研修部の講演会、学習会等
職員の資質向上、サービス内容充実のために、施設内研修及び外部研修に今後も積極的に参加していきたい。

2017(平成29)年度事業報告

（多機能型ワークセンターさくら）
就労移行支援事業所
就労移行支援センターレインボー

Ⅰ　活動方針並びに課題

1　活動方針

法人が掲げる基本理念に沿って事業を実施した。

2　課題

（1） 就労移行支援事業の目的である一般就労への移行を目指し、総合的な学習や訓練等を行い、障害者雇用に結びつけることができた。

一般企業就職２名、A 型事業所移行１名。

（2）事業継続について

2018 年 3 月 31 日をもって、就労移行支援事業を閉鎖した。

登録していたご利用者については、トライアル雇用中の方２名はそのまま継続。

訓練中であった３名は、他法人の B 型事業所に移行した。

（3）あつまリーナ全体について

合同行事や情報交換、あつまリーナ会議を行った

Ⅱ　利用者と職員の状況

1 利用者

定員 10 名、登録者 13 名（男性６名、女性２名、直Bアセス 5 名）

延べ利用者数　1,328 名、年間開所日数 252 日、1 日平均利用者数 5.3 名。

2　職員　6 名

施設長１名（常勤兼務）、サービス管理責任者１名（常勤兼務）、就労支援員１名（常勤）、職業指導員１名（常勤）、生活支援員１名（パート）、事務員１名（常勤兼務）

Ⅲ　サービスとケアの内容

1　3ヵ月毎の面談やモニタリングによって当事業所のサービス管理責任者が作成した個別支援計画、施設外支援等での就労移行支援計画に基づいて行った。。

2　企業における実習、施設外支援等について

牧之原市の企業に１名、島田市の企業に１名と２名が施設外実習を行い、就労に結びついた。

3　適性に合った職場探し

就労に必要な作業訓練、学習指導等を行うとともに、障がい者合同面接会に全員が参加し、会社担当者との直接の面談はよい経験になった。また、市町や商工会議所が主催する会社見学にも積極的に参加した。

4　就労後の職場定着のための支援

就労後、半年間は週１回のフォローアップ支援を実施しました。必要に応じて企業にて相談支援など関係機関に集まっていただき個別ケア会議を実施した。また、1 年以上勤めている卒業生や会社からの相談もあり、自宅訪問や会社訪問をして関係機関に繋いでいる。

5　健康管理について

年２回の健康診断を受診。家族との連携を密にし、利用者の健康管理に努めた。病気やケガで休む利用者はいなかったが、、精神面での課題がある利用者が多く、利用者同士の関係で悩むケースも見られた。

6　営業日と営業時間

月曜日～金曜日　9：00～16：00　年間計画表により実施した。

Ⅳ　防災並びに交通安全

あつまリーナの防災計画及び地震避難計画を基にあつまリーナ全体の事業所と合同で毎月防災訓練を実施した。今年も 2月に隣の「はあとふる」 2階に避難をした。

また、送迎車全車にドライブレコーダーを設置し、安全運転に努めてた。

Ⅴ　苦情とその対応、並びに虐待と思われる事案に対する対応など

苦　情　　2 件（他事業所との連携）　　ヒヤリハット　　0 件

事　故　　1 件（作業中ケガ）

虐待と思われる事案は無かった。

Ⅵ　家族や地域

1　家族

施設便り（さくらだより）を毎月発行し、全利用者に配布した。隔月で保護者会を開催し、事業所内の様子や今後の予定を報告し、保護者の方と意見交換ができるように努めた。

2　地域

キラリ高校の文化祭では、生徒との交流やさくらのパン販売をしました。吉田町ふれあい広場では、進行係りが定着して任されていましたが、台風で中止になり残念であった。

Ⅶ　実習生やボランティア

1　実習生

職場実習：吉田特別支援学校 3名、静岡福祉大学 2名

2　ボランティア

行事以外でのボランティアを得ることはできなかった。

Ⅷ　環境整備（建築、改修、修繕等を含む）

ご利用者・職員で町内一斉清掃や定期的な草取りやゴミ拾いなどを行なった。

Ⅸ　職員研修

法人全体職員研修、中堅職員研修など法人研修部主催の研修に積極的に参加した。また、外部研修は就労支援の研修に2名参加した。

Ⅹ　その他

レインボー終了に伴い、ご利用者及びご家族や卒業生から、将来の不安や現在の困りごとの相談など多数受けた。法人内での今後のフォローの難しさとご利用者及びご家族の希望もあり、牧之原市に新しくできる就労継続支援Ｂ型事業所が利用者や卒業生の受け皿になる見込みである。

2017(平成29)年度事業報告

地域活動支援センター
レタスクラブ

Ⅰ　活動方針並びに課題

１　活動方針について

法人が掲げる基本理念に沿って事業を実施した。

２　課題

（1）サロン的な雰囲気の地域活動支援センターとして、障がい等があることにより地域で生活していくことの難しさを感じている利用者が､日常会話の中から相談につなげた。

（2）利用者自らが「やりたいこと」を自主活動に取り入れて、自らの意見が言え、聞けるように支援し、創作的活動又は生産活動の機会の場を提供し、社会との交流の促進を図るとともに、社会とのつながりができるように支援を行った。

（3）担当課や相談事業所と連携を取り、連絡体制や実務体制、情報の共有を図りながら支援に努めた。利用者は、多くの疾患にわたる精神障害者であり、利用中においても不安さを行動に表す時もあり、どう対応すればよいかの対策を検討していきたい。

Ⅱ　利用者と職員の状況

１ 利用者

（1）実利用者数　24　名、　延べ利用者数　1906　名

２　職員

施設長兼務１名、正規職員１名（精神保健福祉士)、パート２名（交替)、

Ⅲ　サービスとケアの内容

利用時間　月曜日～金曜日　9時～16時

障がいの特性等、可能な限り情報を把握しながら、利用者自らが日々の行動やその対応を工夫することで、日常生活を送ることができるように支援した。

１　ストレッチ、脳トレ（記憶力ゲーム・文字名添え・計算)、運動（散歩・卓球・テニス・草取り・散歩）雑談

２　グループワーク（障がいや病気のこと、他人との関わり方、困った時の対応の仕方等）
＊支援センターの相談員を含めての当時者研究やＳＳＴも実施した。

３　個人面談を行い、本人の気持ちを伺った。

４　他の地域の地域活動支援センターの見学や外出､月2回程度（実費負担）のランチ作りなど利用者の希望を聞きながら実施した。

Ⅳ　防災並びに交通安全

毎月、あつまリーナ内の三施設と合同で防災訓練を実施し、火災・地震等の発生時、迅速且つ安全に利用者を避難させるよう努めた。

Ⅴ　苦情とその対応、並びに虐待と思われる事案に対する対応など

苦情１件。

ヒヤリハット・事故報告については、　３件（ヒヤリ１　件、事故　２件）あった。

Ⅵ　家族や地域

・昨年に引き続き「レタスクラブだより」を作成・発行して、事業の活動内容を知ってもらうために関係機関に配置した。
・地域貢献のひとつとして近隣のカーブミラーの清掃を行った。

Ⅶ　実習生やボランティア

実習とボランティアの受け入れを行った。

Ⅷ　環境整備（建築、改修、修繕等を含む）

町から委託管理を受けているため、毎年、要望を提出している。

Ⅸ　職員研修

法人主催の学習会や研修会などに参加し、知識と情報を得た。

2017(平成 29)年度事業報告

相談支援事業所
生活支援センターやまばと

Ⅰ　活動指針並びに課題

1　活動方針について

法人が掲げる理念並びにリニューアルプランに沿って事業を実施した。
事業所内で定期的に計画ケース情報を共有し、より良い本人支援や事業所連携に繋げた。
様々な契約･解約の手続きや住居探し等の相談を受け､必要な情報提供や同行だけでなく、民生委員や司法書士はじめ高齢・就労分野の専門機関との連携に努めた。
相談支援事業に関しては定期的に行政と協力し、計画・評価・見直しを行っている。

2　課題について

委託と計画相談の役割を明確にし、支援を行うことで整理でき、効率化につながった。
主に常勤、非常勤、主任、副主任等の業務の内容を明確化し、標準化を図った。
組織整備のために施設長（非常勤）配置を行い、職員の精神的ケアに取り組まれたが経営上の課題である収入向上のための方策を検討するには至らなかった。

Ⅱ　ご利用者と職員の状況

1　委託相談実人数

市町名	身体障害	重心障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳	その他	(内･児童)	合計
牧之原	23	3	46	26	6	3	3	(3)	110
島田	8	4	96	9	5	0	0	(19)	122
合計	31	7	142	35	11	3	3	(22)	232

2　計画相談実人数（サービス等利用計画作成実人数)

牧之原市	吉田町	島田市	静岡市	盛岡市	伊豆市	合計
118	99	175	1	1	1	395

3　職員

(1) 委託相談支援事業

牧之原市：2 人工 3 名体制。1.0 人工（専任）0.75 人工（兼務）0.25 人工（兼務）
島田市：1.25 人工 2 名体制。1.0 人工（専任）0.25 人工（兼務）

(2) 計画相談支援事業

相談員 6 名体制。正職 1 名・準職 2 名（専任)、パート 1 名（専任）正職 2 名（兼務）

(3) その他

施設長 1 名（嘱託）：体調不良の為、11 月より病欠。相談員補助パート 1 名、
事務員パート 1 名

Ⅲ　サービスとケアの内容

1　委託相談

(1) 牧之原市

委託相談と計画相談の役割を分け、協力する事で困難ケースにスムーズに対応した。
自立支援ネットワーク部会運営が円滑に進むよう協力連携した。

(2) 島田市

自立支援協議会、その他部会に参加し、官民協働を意識した運営・取り組みを行った。
児童期分野に係る会議（連絡会・ケア会議等）に参加し、ライフステージを意識した

課題提起を行った。

2 計画相談

2 市 1 町で統一した計画相談一覧表を作成、計画更新やモニタリング実施状況等が全体で共有できる等、標準化を図った。

各市町担当制をはずし、事業所、主に入所・GH からまとめて振り分ける等の調整を行い、計画相談の業務の分業化や効率化を図った。

3 その他

一般相談支援事業については、体制整備に至らず実施ができなかった。

下半期には経営課題について法人と協議をし、人員体制について検討を行った。

2018 年度総合支援法報酬改正により、体制整備の再検討が必要となった。

Ⅳ　防災並びに交通安全

法人の災害時緊急連絡体制訓練に参加し報告の確認を行った。

法人内の防災会議に参加し避難時対応についての確認を行った。

時間に追われ、速度超過や交通マナーを守れなかった時があり、交通ルールを守る意識が低い場合もあった。事業所内会議で検証を行い、再発防止に努めた。

Ⅴ　苦情とその対応、並びに虐待と思われる事案に対する対応など

（1）苦情 5 件　　（2）事故 3 件　　（3）ヒヤリハット 4 件

月 1 回、ヒヤリハットや苦情報告、より良い支援に繋げる検討をした。

苦情や事故については、法人や各機関と連携をとり適切に対応した。

拠点ができたことで、個人記録を所定の場所に保管することができるようになった。

拠点が法人内事業所と共有であるため、電話や打ち合わせ等での個人情報漏れには引き続き注意をする必要がある。

Ⅵ　実習生やボランティア

社会福祉系大学よりの実習生を一人受け入れた。

Ⅶ　環境整備

法人本部横に、計画相談支援事業拠点の整備を行った。会議、打ち合わせのスペースの確保ができ、相談支援の動きの確認等ができやすくなった事で、効率化を図る事ができた。

Ⅷ　職員研修について

年間計画・本年の目標の基づき、研修に参加。業務優先の為、積極的参加は出来なかったが、必須研修以外、相談員それぞれが、1 回以上研修に参加をしている。研修報告書での共有の機会を持っている。

外部の事例検討会や研修会で、困難事例ケース対応を検討し、アセスメント力の向上を図った。

今後の相談支援事業を想定して県外研修に参加した。

Ⅸ　その他

体制整備・制度改正に伴う検討を行う事で、法人内会議の企画運営が出来なかった。

精神保健福祉士による、スーパービジョンを行い、委託相談における困難事例に対する対応について学ぶ機会を定期的に持った。

2017(平成29)年度事業報告

介護老人福祉施設
短期入所生活介護（介護予防短期入所生活介護）
特別養護老人ホーム　聖ルカホーム

Ⅰ　活動方針並びに課題

1　活動方針について

2017 年度は、「ご利用者ご家族に寄り添う支援」「職員の専門性を高め、適切なケアの確保と職員の自己成長の支援」「地域や行政との連携」「法令を順守した適切なサービスの提供」を活動指針としました。全職員で事業計画の内容を共有し、目標を持って取り組めた一年だったと感じます。まだまだ目標を達成出来たというところまでは到達出来ておりませんが、引き続き特別養護老人ホーム及びショートステイ事業の果たすべき役割りを職員一人ひとりが理解し、よりよいサービスの提供と自己の成長、安心して暮らせる地域づくりのため、一層努力していきます。

2　課題

（1） ご利用者がその方らしく暮らせる支援

「ユニットケアの理念」に基づき、入居後もそれまでの暮らし（生活のリズムや環境）が継続できるような支援を目指しました。

（2） ケアの質の確保

職員育成のため、外部研修・法人内研修・施設内研修を多く提供し、介護に関する技術や知識の習得とともに内面的にも成長できる機会をもうけました。人としての成長が、ご入居者へのより良い支援を実現するためには必要な事だと考えました。

（3） 職員の確保と定着

学生の実習を受け入れ、丁寧な対応を心がけたことで新卒者の就職につながりました。また、職員に対しては健康診断とストレスチェックの実施により、職員自らが自分の心身の健康に関心を持ち、健康に働けるよう施設としてもバックアップできました。

（4） 地域との連携

ご利用者が地域の方々と交わりが持てるよう、近隣の幼稚園や学校（小・中・高）との交流や実習生・ボランティアの受入れができました。地域の高齢者の方々に対しては、“わいわい話そう会”を開催し、予防を兼ねた居場所づくりができました。今後も、福祉施設として地域に対して何が出来るか検討し実施していきたいと考えています。課題としては、災害時の協力体制づくりが未整備であるということです。

（5） 法令の順守

職員研修を行い職員への周知を行いました。また、各関係機関からの情報収集を迅速に行い施設全体で対応しました。

Ⅱ　利用者と職員の状況

1 利用者について

（1）　長期入所（定員 70 名）

現員 69 名（男性 16、女性 53）　最年長‥103 歳　最年少‥65 歳　平均年齢‥87.6 歳
年間稼働率‥99.24%　平均介護度‥3.57（介護度 1-3 名、介護度 2-6 名、介護度 3-25 名、介護度 4-19 名、介護度 5-16 名）　新規入所者‥27 名　　退所者‥29 名

（2）　短期入所（定員 10 名）

平均介護度‥2.8　　年間平均稼働率‥76.2%　　延利用者数‥2,796 人

2　職員について

2018年3月31日現在在職者数

施設長1名（1・他事業所兼務）　相談員・ｹｱﾏﾈ3名（3）　介護員50名（33）

看護師9名（1）　管理栄養士1名（1・他事業所兼務）　事務員6名（4・他事業所兼務）　洗濯清掃員2名　宿直員3名　嘱託医師1名　　※（　）内は、正職員の再掲

2017年度中の増減状況

就職者7名（正職1・パート6）　退職者4名（正職2・ﾊﾟｰﾄ2）

人事異動増6名（正職6）　　人事異動減2名（正職2）

Ⅲ　サービスとケアの内容

1　多職種でユニットケア24Hシートの見直しを実施し、ご利用者ごとの生活リズムに合わせたケアを心がけました。

2　健康管理については、嘱託医師が毎週往診をし適切に管理できました。健康診断、各種予防接種も実施いたしました。

Ⅳ　防災並びに交通安全

1　職員防災訓練は、毎月テーマを決め実践的な訓練を実施しました。

2　交通安全については安全運転を心がけ無事故で1年間過ごせました。

Ⅴ　苦情とその対応、並びに虐待と思われる事案に対する対応など

ヒヤリハットを見逃さず、苦情や事故防止に引き続き努めます。虐待に関しては、職員一人ひとりが正しい知識を持ち、自身の言動に責任を持つように啓発しました。

・苦情3件（ご利用者からの苦情1件・ご家族からの苦情2件）

・事故100件（転倒転落38件、誤薬20件、外傷28件、誤嚥4件、その他10件）

・ヒヤリハット151件（転倒転落等70、投薬関係7、所在不明10、独歩15、その他49）

Ⅵ　家族や地域

1　毎月発行の聖ルカだより、近況報告や職員からのコメントを充実させ、家族会もユニットごとの開催に加え施設全体での家族会（施設の運営方針・介護保険について・聖ルカホームのターミナルケアの考え方等）を実施しました。

2　市内の幼稚園児や小中学校との交流、高齢の方々の集いの場と介護予防を目的とした“わいわい話そう会”を開催いたしました。

Ⅶ　実習生やボランティア

1　実習生の受け入れ

中学校（1校）・高等学校（1校）・専門学校（1校）・短期大学（1校）・大学（1校）

2　ボランティアの受け入れ

日赤奉仕団・サンバの会・榛原高校（野球部）・その他　　合計　11団体・78回・434人

Ⅷ　環境整備

業者によるメンテナンス（ロス内清掃、厨房清掃、害虫駆除）などを適宜実施し、安全で衛生的な施設環境を整えました。

Ⅸ　職員研修

法人研修　延158人（新人、新年度、リーダー、管理職、虐待防止　他）

施設内研修　延427人（身体拘束、感染症、認知症、ﾕﾆｯﾄｹｱ、ﾘｽｸﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ、ﾎﾟｼﾞｼｮﾆﾝｸﾞ　他）

外部研修　延57人（喀痰吸引、ﾕﾆｯﾄｹｱ、ｺﾝﾌﾟﾗｲｱﾝｽ、褥瘡予防、虐待予防　他）

Ⅹ　その他

1月23日から2月11日、ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞＢ型による集団感染（ご利用者11名、職員6名）を発生いたしました。重篤な症状はなかったものの、ご心配をおかけいたしました。より一層の予防に努めます。

2017(平成29)年度事業報告

介護老人福祉施設
短期入所生活介護
地域密着型特別養護老人ホーム　グレイス

Ⅰ　活動方針並びに課題

1　基本方針について

牧ノ原やまばと学園のﾘﾆｭｰｱﾙﾌﾟﾗﾝに基づいて事業を実施しました。

（1）利用者1人ひとりにとって良好な生活環境を整えて、その持てる能力を生かし、その人らしく日常生活を送っていただけるように支援しました。

2　課題

（1）看護師は6月に正職1名を迎える事ができましたが、介護部門は新人の体調不良や年度途中の異動者の育成ができず、安定的な確保はできませんでした。

（2）修繕や照明器具の交換は予想を下回る結果でしたが、ユニットフロアー壁紙や電化製品の経年劣化がみられ、今後も修理・修繕が必要となります。

（3）高齢者の居場所作りや地域へ出向いての茶話会への参加など、わずかではありますが地域への貢献活動が行えました。個々のご家族支援のサービス計画には至りませんでした。

Ⅱ　利用者と職員の状況

1 利用者について

（1）定員29名、現員29名（男性6名、女性23名)、年度内入退居7名、　年間平均稼働率98.8%、　入院者延べ7名（内1名は転院のため退居・6名はグレイスへ）
平均介護度…3.9　　最年長…103歳　　最年少…67歳

（2）ショートステイ利用定員8名。4月～10月の平均稼働率67.6%
8月の稼働率は83.9%であったが、9月にショート一時休業が決まって以降、利用者は減少となりました。

2　職員について

H29年4月1日時点：正規職員23名、パート14名（清掃員1・宿直員3)、嘱託医1名
H30年3月末時点：正規職員19名、パート15名（清掃員1・宿直者3)、嘱託医1名
（施設長・副施設長・ケアマネ・管理栄養士・事務員は他事業所・他部門を兼務）
法人全体の人手不足により、10月末でショートステイを一時休業する事となり、正職介護員4名が異動。グレイスは3ユニットでの運営となった為、正規職員の夜勤回数増。
年度末までに自己都合により正職3名が退職。

Ⅲ　サービスとケアの内容

1　利用者の生活・医療に関する情報を丁寧にアセスメントし、1人ひとりのそれまでの暮らしに沿って作成したケアプランに基づいてサービスを実施しました。

2　恵の丘全体で季節の行事・各種慰問の受け入れを行い、・ユニット単位では外出外食支援・個別のレクリエーションの充実に努めました。

3　配置医師による診察：月2回、健康診断：年1回、インフルエンザ・肺炎球菌予防接種。
感染予防に努めインフルエンザ・ノロ等の施設内感染はありませんでした。
医療機関受診、入退院の対応、痰の吸引・経管栄養の対応は看介護が連携を取りマニュ

アルに沿って実施しました。

4　訪問歯科を活用する事で口腔内の治療と清潔保持について技術的な相談をしたうえで口腔ケアを行い、誤嚥性肺炎等の予防に努めました。

Ⅳ　防災並びに交通安全

1　火災及び地震に対する計画に基づき防災訓練を毎月実施。今年も坂部消防団の協力で放水訓練を同時に実施。課題としていた地域との災害時の細かな協定書作成は進める事ができなかった。利用者個々のＢＣＰフェイスシートを作成しました。

2　交通安全教室に参加。安全運転に心がけ、交通事故や小さな物損事故もありません。

Ⅴ　苦情とその対応、並びに虐待と思われる事案に対する対応

1　苦情 3 件 : 1 件は職員の対応、2 件は交通マナーについて。全職員に対し注意喚起を行った。その後訴えは聞かれていません。

2　事故 44 件、ﾋﾔﾘ 106 件。会議で対策を検討、対策への評価を行いました。
入院 1 名（骨折）、受診 4 名（骨折 1、裂傷 1、義歯飲込み 1、打ち身 1）を行政へ報告

3　経営運営会議・リスク虐待会議において虐待・虐待ヒヤリの報告は聞かれなかった。職員会議で虐待防止チェックリストのチェックを行い、職員への意識付けを行いました。

Ⅵ　家族や地域

1　年度途中の職員異動ではご家族にご心配をおかけした。グレイス便り・年末の家族会で体制の変更等について報告を行いました。夏祭り、楽笑会に御参加いただきました。

2　運営推進会議を年6回開催。職員の減少、ユニット移動もあり、地域行事への参加は難しく、よいとこ祭・坂口谷川案山子祭りへの出展・見学も併設デイサービスの協力を得て行うことができました。

Ⅶ　実習生やボランティア

1　法人内事業所（障害者支援施設・養護老人ホーム）の実習生を受け入れました。

2　長年計画的に喫茶や余暇活動に訪れて下さるボランティさんがある一方、新規に継続的に訪れていただけるボランティアさんの開拓ができていません。

Ⅷ　環境整備（建築、改修、修繕等を含む）

1　居宅職員がグレイス事務所に机を移動した事にともなって配線工事・ユニットの再編成によるピッチの再設定を行いました。

2　大きな修繕等はなく各ユニット共同スペース・居室内は利用者に合わせてレイアウトを工夫し、落ち着ける環境作りを行いました。

Ⅸ　職員研修

法人研修	**延　21人（新人･中堅職員･ﾘｰﾀﾞｰ･管理職　他）**
施設内研修	延 260人（ﾎﾟｼﾞｼｮﾆﾝｸﾞ･吸引･虐待防止･感染症･認知症･看取り･ﾘｽｸ　他）
外部研修	延　25人（ﾏﾅｰ･ﾘｽｸ･ｺﾝﾌﾟﾗｲｱﾝｽ･苦情解決･喀痰吸引･指導力向上　他）

Ⅹ　その他

職員の労働環境の整備を目標としていましたが、体制の変更により負担が増える結果となりました。

2017(平成29)年度事業報告

養護老人ホーム
相　　寿　　園

Ⅰ　活動方針並びに課題

1　活動方針について

法人が掲げる基本理念に沿って事業を実施しました。

2　課題

（1）入所者が減少している中で、入所者の確保の観点から自立していない方も受け入れている現状にあるが、限られた職員数では事故等のリスクも高く憂慮している。

（2）放射線防護対策事業で空調設備も改修が行われたが、老朽化している未改修箇所の早期改修が望まれる。

Ⅱ　利用者と職員の状況

1　利用者について（定員　入所50名　短期入所5名）

年間の平均入所者数は 30.0 名、生活管理短期宿泊利用者数は 7 名で延べ 124 日、自主短期宿泊利用者数は 14 名で延べ 1,130 日でした。

措置市町別、年齢別、在籍年数別利用者数（3 月 31 日現在）は次のとおりです。

・市町別では、牧之原市 15 名、御前崎市 4 名、吉田町 1 名、焼津市が 3 名、藤枝市、掛川市が各 1 名、川根本町 6 名、南相馬市 1 名であった。

・年齢別では、60～69 歳が 5 名、70～79 歳が 13 名、80～89 歳が 10 名、90 歳以上が 3 名で、平均年齢は男性 74.9 歳、女性 82.7 歳、全体では 78.6 歳となっている。最高齢は男性 89 歳、女性 95 歳である。

・在籍年数別では、2 年未満が 6 名、2～5 年未満が 8 名、5～10 年未満が 10 名、10 年以上が 7 名であり、最長在籍年数は男性 12 年 5 か月、女性 14 年 8 か月で平均では 6 年 4 か月となっている。

年間の入所者は 4 名、退所者 1 名で、年度末の在籍者は 31 名であった。入所は在宅から 2 名、他施設及び病院から各 1 名ずつ、退所は死亡 1 名であった。

入所者の外部（介護）サービス利用状況では、9 名のご利用者が、通所介護を年間 834 回、福祉用具貸与を月平均 9.4 品利用した。

2　職員について（3 月 31 日現在）

常勤職員は施設長、主任生活相談員、生活相談員、看護師、栄養士、事務員、主任支援員各 1 名、支援員 2 名である。パート職員は支援員 3 名、夜勤専門員 2 名、夜勤補助員 4 名である。

Ⅲ　サービスとケアの内容

1　健康管理

嘱託医による往診を毎月隔週（火曜日）に実施し、延べ 189 名の診察を行った。定期健康診断は年 2 回、インフルエンザ予防接種は 2 名の外傷性てんかん者を除き全員に、肺炎球菌予防接種は対象者 5 名に実施した。また、朝礼前に全員の検温を行い、体調不良の早期発見と早期治療（受診）に努め、感染症対策では、来訪者や外出からの帰園時には、玄関での手洗い、うがい、手指の消毒を行った。

通院については、精神科、内科、外科、眼科、歯科等に 412 回の受診があった。入院は、榛原総合病院や御前崎病院ほかに、9 名延べ 776 日の日数であった。

２ 教養・娯楽、行事等

主な行事は次のとおりです。

4/4、5 お花見（掛川城） 5/26 小旅行（フラワーパーク） 6/22 施設招待食事会（うおとも） 7/28 夏まつり 9/26 物故者慰霊祭 9/20 敬老会 9/29 小旅行（三津シーパラダイス） 10/19 運動会 11/13、30 紅葉狩り（川根、藤枝方面） 1/18 初詣（富士山本宮浅間大社） 1/22 新春食事会 1/26 出張商店街

前記以外に、七夕飾りや盆行事、クリスマス会、餅つき、節分などの季節行事を行い、平日の朝礼や週 2 回礼拝を実施した。また、講師を迎えて、笑いヨガ、文化教室を開催し、栄養士による喫茶を毎月開催した。利用者の誕生日には寿司を提供し、農園で穫れた作物を皆で調理するなど食の楽しみを肌で感じていただいた。

Ⅳ 防災並びに交通安全

毎月 1 回、昼間・夜間の避難訓練、消火訓練、資機材の点検、操作訓練などを実施し、11 月には地域の方々の協力を得て訓練を行った。また、原子力災害の発生で放射性物質が放出した場合に、入所者が一時的に施設内に留まるための放射線防護対策設備が完成した。

一方、12 月 28 日夜半には消防用設備の熱感知器が湿気による誤作動で、消防署、消防団警察署が出動し周辺が騒然となり、近隣の皆さんや関係機関に多大なご迷惑をお掛けした。

Ⅴ 苦情とその対応、並びに虐待と思われる事案に対する対応など

苦情受付箱へのご意見が 1 件あり、日時、当事者、関係職員がはっきりしないため、利用者の会でお話するとともに関連職員には厳しく指導した。事故･ヒヤリハットの発生件数は、56 件が報告された。このうち重大な誤嚥事故が 1 件あり、転倒による事故も依然と多く、薬の落下や入所者同士の喧嘩も発生している。

Ⅵ 家族や地域

夏祭りへの招待には 8 家族 21 名の参加があり、地域との交流では、夏祭りへ地域の老人クラブ、地区役員、近隣住民を招待し、ボランティアとして参加された方も含め 191 名（相寿園関係者除く）の参加があった。

Ⅶ 実習生やボランティア

実習生は静岡産業大学から 1 名があった。40 の個人・団体の皆様からは、延べ 277 回のボランティア活動・慰問があった。

Ⅷ 環境整備

消防用設備（避難誘導灯、非常用蓄電池ほか）、電気温水器、畳表替え、トイレ等の修理を行った。

Ⅸ 職員研修

中部地区養護老人ホーム施設職員連絡会や静岡県福祉人材センターが主催する研修会を中心に 31 回、延べ 37 名が参加した。また、法人内の研修委員会や高齢者事業部の主催する研修会に 10 回延べ 18 名が参加した。

Ⅹ その他

3 の団体から現金、21 の個人・団体から 26 件の物品の寄付があった。

2017（平成 29）年度事業報告

養護老人ホーム
島田市立養護老人ホームぎんもくせい

Ⅰ　活動方針並びに課題

1　基本方針について

法人の掲げる基本理念「ともに生きる」/「私たちの願い」/「互いに助け合うコミュニティ創り」に沿って、事業を実施した。

2　課題

(1) 運動の確保は、担当など置いたが日中の散歩はなかなかその頻度が増えなかった。寄付頂いた道具により卓球も検討したが、実施は出来なかった。対認知症は、食事前の体操や、集会時の体操、予防知識の普及を行ったが、効果は測定できず。

(2) 緊急時のマニュアルを中心に 4 テーマの再確認と 1 テーマの作成を行った。今後はその新しいマニュアルの共有と活用が次期の課題か。

(3) 小会議は、相談員中心に促したが、招集開催は十分でなかった。次期に持ち越したい。

Ⅱ　利用者と職員の状況　（平成 30 年 3 月末現在）

1　利用者について

(1) 定員 50 名、現員 48 名、高齢自立者、要介護認定 8 名、要支援認定 3 名、総合事業対象者 6 名、身体障害者手帳 8 名（聴覚障害者含む）、精神保健福祉手帳 3 名、療育手帳 3 名。平均入所者数 46.8 人、年平均利用率 90.9%であった。

(2) ショートステイ　生活指導短期宿泊事業　定員 2 名、施設自主短期宿泊事業　定員 10 名、を実施した。生活指導の利用は無く、自主短期は 1.9%利用であった。

2　職員について　正規職員 10 名（施設長 1、主任支援員（副施設長）1、生活相談員 2、支援員 3、事務員 1、看護師 1、栄養士 1）　パート職員　11 名（支援員 3、夜勤専門員 3、早朝専門員 2、宿直夜勤補助員 3）

年度当初の予定の職員数で事業を始められたが、年度末に正規支援員の退職 1 名があった。

Ⅲ　サービスやケアの内容

1　基本サービス（健康状態の確認、食事、入浴、娯楽、夜間支援）を中心に自立的な暮らしを支援できたと考えている。

2　健康診断等につき、嘱託医による定期回診が予定通り行われたほか、年 2 回 7 月と 1 月の定期検診も予定通り実施できた。予防接種についてほぼ予定通り実施できた。定期歯科検診も昨年同様 6 月と 12 月に実施することができた。

3　通院・入院について

嘱託医が 2 月に変更となったことから、事前案内に努めたが、処方箋発行の医院が神川医院からレシャード医院に変わり、利用者や保証人など関係者に多少の混乱を与えた。今後も薬局を含めて関係者と良い関係を作っていきたい。

4　教養娯楽について

計画通り行えた。10 月満足度調査より行事について利用者は 24%が満足。88%が普通以上の評価。外出は利用者に希望を取り、可能な所を実現。内職は、作業者は 83%が継続の希望あり。やっていない人は半数（51%）が興味なし。

Ⅳ　防災並びに交通安全

1　防災

(1) 火災と地震にかかわるマニュアルを再検討した。今後各人ごとに渡す予定。

(2) 法人の全体防災訓練についても、安否コールの連絡の確認が殆どだった。2名のメールが受信は可能だが、発信元に届かなかった。

2　交通安全

交通安全教室について、今年度は4月に交通安全協会の普及員を招いて、施設で教室を持った。本部開催分については、欠勤者の発生などにより参加できなかった。

Ⅴ　苦情とその対応、並びに虐待と思われる事案に対する対応など

1　苦情　1件　要望　3件。苦情は、番号誤りによるＦＡＸ発信によるもの。その後、同じことは起きていない。要望は、食事に係るもの、利用者間問題など、分類上要望とした。

2　速やかな対応を心掛けた。相手のあることでもあり、解決までに一週間以上かかる場合も考えられ、今後も最初の反応を早めに取りたい。

3　毎月職員会で事故等と苦情等の検討会を持ち、事例の共有を図った。苦情箱に投書も可として、虐待懸念も一応確認の形を取った。 投書無し。

Ⅵ　家族や地域

1　家族等との交流

保証人会を10月14日に実施し、２０組３１名の参加。医療提供状況の説明を行った。

2　地域社会との交流

計画通り実施できた。大津小学校４年生との交流を今年も４回実施できた。大津小校長先生や地元の方の夏祭りへの参加を頂き、大津地区文化祭への作品出品など行えた。

Ⅶ　実習生やボランティア

実習生は、5月15日～17日に2中学校から合計6名を受入れた。慰問ボランティアは、カラオケや踊りの披露など多数来ホーム下さった。

Ⅷ　環境整備

エアコンの修理が梅雨前から3月末までずっと続いた。2階居室の二人部屋7部屋に間仕切りを島田市によって設置された。準個室化でき、評判良いため、今後も検討したい。

Ⅸ　職員研修

中部公立養護老人ホーム協議会主催の研修中心に実施した。５回７名の参加。関係施設でほぼ毎月の研修を持ち回りで実施し、課題や解決策の共有など有意義なものとなった。ＡＥＤの講習会を年度内に2回設けた。虐待対応研修４企画に、いずれか全職員参加した。

Ⅹ　その他

1　入所者に向けた、自治組織形成についての10月満足度調査によれば、利用者の代表者を置いた方がいい（21.4%)」「無回答（40%)」と強い自治への希望は感じられない。

2　内職を昨年度末から受託し始めた。未だ作業者は4名と少ないが、(当初は男性3名、女性3名で開始) 新しく入所される方からは、その希望を伺うことが増えた。多くの利用者は様子見しているように見える。上記調査によればやっている人は殆どが「続けたい」(5/6)というも、やっていない人は「興味がない」「無回答」(30/37）が殆どであった。

2017(平成29)年度事業報告

通所介護
介護予防通所介護
デイサービスセンター真菜

Ⅰ　活動方針並びに課題

1　活動方針について

法人の基本理念に基づいてサービスの提供をしました。住み慣れた地域での暮らしが継続できるように、本人及び家族のニーズにできる限りこたえるよう支援しました。

2　課題

（1）総合事業対象者を積極的に受け入れ、社会参加を目的とした外出を3回行いました。

（2）前年の水準は維持できました。歩行と効果の見える化に取り組みました。

（3）休憩時間の確保や終了時間に関しては、成果が出るような取組みができませんでした。多くの課題が残っているため、次年度も更に創意工夫して課題解決に取り組みます。

Ⅱ　利用者と職員の状況

1　ご利用者について

年間の新規利用が要介護者22件、総合事業11件、計33件でした。（前年度17件）入院・入所・廃止の方が年間で9件でした。（前年度22件）１日平均利用者は前年度と変わらず21.0人でした。

延数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護	434	457	461	460	524	499	503	472	472	486	472	582	5822
予防	33	37	39	38	38	36	28	22	39	18	9	0	337
総合	2	5	7	12	11	12	21	32	20	44	40	48	254
私費	4	4	3	8	6	8	9	8	8	4	4	4	70
平均	18.9	18.6	19.4	19.9	21.4	21.3	21.5	20.5	22.5	23.0	21.9	23.5	21.0

2　職員について

正職4名、事務兼務1名、パート（看護）5名、（介護）9名、（介兼）2名、（介補）2名、（運転）4名、計27名でスタートしましたが、年度途中でパート看護師1名、運転手1名、介護補助2名が退職し、パート職員1名腰痛のため休職中。運転手1名、パート職員1名就職された。配置が必要なため、看護師についてはグレイス・聖ルカより、介護員についてはさふらん・ぶどうの木より応援していただきました。

Ⅲ　サービスとケアの内容

1　プランに沿ったサービスの実施

通所介護計画書の見直しを行いました。通所の目標をより具体的に設定する事で個別のプログラムが提供しやすくなり、意欲やＡＤＬの維持・向上につながりました。

2　健康管理について

バイタル測定や、日々の様子観察で気づいた事をご家族に伝えることで、早期に異変を発見し適切な対応ができました。

3　教養娯楽について

歩行に特化しました。歩行カードを作成し、オリーブ畑のウォーキングコース・中庭・ホ

ール内を、目標を立てて歩行しました。ご利用者さんからの「やりたい」を「実現」する取り組を5件実施し、意欲の向上や生きがいを持っていただけるような支援を心がけました。

Ⅳ　防災並びに交通安全

1　防災訓練

（1）12月と3月に通報訓練と中庭への避難、避難道路を実際に歩く避難訓練を行いました。

（2）BCPは非常食の部分のみ見直しましたが、検討会は行えませんでした。

2　交通安全の意識付け

（1）毎日・毎週の送迎前点検を実施しました。定期点検も忘れずに実施しました。

（2）交通安全マナーの厳守を周知しました。違反は0件、軽度な車両の接触事故5件ありました。

Ⅴ　苦情とその対応、並びに虐待と思われる事案に対する対応など

苦情の対応は迅速に誠意をもって対応しましたが、1 件顧問弁護士に相談する案件がありました。事故 33 件、ヒヤリハット 12 件、ヒヤリハットメモ 52 件、苦情 5 件でした。虐待防止やリスクについては職員会議で定期的に話し合いの機会を持つことができました。

Ⅵ　家族や地域

1　3月に介護者の集いを開催し15件17名のご家族が参加されました。3月に満足度調査を行いました。結果は回答者44名、言葉遣い→41名、対応→39名、希望に沿ったサービス→39名、食事→28名、入浴→30名、レク、行事→26名が満足でした。

2　お祭り見学、河川清掃、オリーブ畑の草取りなど、地域の催しに参加しました。三栗のシニアクラブとの交流が2回できました。

Ⅶ　実習生やボランティア

実習性の依頼はなかったため、受入れはありませんでした。麻雀・喫茶・ハンドマッサージ・音楽療法のボランティアは年間をとおして計画的に来ていただけました。

Ⅷ　環境整備

建物内外の消毒を毎月行いました。建物の修繕については、「真菜の今後を考える会」などで検討課題にあげ、次年度の課題となる。玄関の雨漏りがみられるため、外壁の補修や塗装等の修繕は早急に行いたい。毎日の送迎を安全に行うことと、万が一事故に遭ってしまった場合に職員を守るために全車両（7台）にドライブレコーダー設置しました。

Ⅸ　職員研修

外部研修や法人内研修にできる限り参加できるように勤務調整しました。参加後は報告書の回覧と職員会で報告し情報を共有しました。毎月の職員会でミニ研修を行い、職員同士のコミュニケーションも図れるよう工夫しました。

Ⅹ　その他

1　誕生日と記念日に計画的に有給取得を実施し、有給消化率36.1%（前年度28.5%）とＵＰしました。朝礼時の腰痛予防体操も継続して行いました。

2　介護員や看護師が足りない時に、聖ルカ、グレイス、さふらん、ぶどうの木より応援していただきました。

2017(平成29)年度事業報告

地域密着認知症対応型通所介護事業所
デイサービスセンターすずらん

Ⅰ　活動方針並びに課題

1　基本方針について

牧ノ原やまばと学園のリニューアルプランに基づいて事業を実施しました。
認知症の方が可能な限り住み慣れた地域で生活が継続でき、また支えるご家族の介護負担が軽減されるよう、家庭的な環境の中で認知症の緩和と体力の維持を目指す。

2　課題

稼働率アップを目標に出来る限り新しい取り組みを行ったが、グレイスのショートが閉鎖した事や個々のサービス利用の変更等も重なり大幅上昇には至っていません。
グレイス内にデイサービスがある事も知られていない為、地域と繋がる行事の計画や地域サロン等へ参加していく事等が課題となっています。

Ⅱ　利用者と職員の状況

1 利用者について

（1）定員 12 名

月 / 実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数	130	159	158	162	166	168	171	174	170	162	146	171
稼働日	25	27	26	26	27	26	26	26	25	24	24	27
均(人)	5.2	5.8	6.0	6.2	6.37	6.46	6.57	6.69	6.8	6.75	6.08	6.3
実人数	15	15	16	16	17	17	17	17	18	18	16	16

・新規利用者７名　　・利用廃止６名　　・年間平均稼働率：52.2%、

2　職員について（3 月 31 日現在）

施設長１名（シャローム・グレイス施設長兼務)、管理者１名（グレイス副施設長・介護員兼務)、　相談員１名、パート介護員４名、パート運転手３名

Ⅲ　サービスとケアの内容

1　ｻｰﾋﾞｽ計画に沿って個々の身体機能を見極めたうえで、安全な環境の中、家事活動・ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ等を楽しみながら行えるようにし、脳機能や身体機能の維持を図りました。

2　毎回健康チェックを行い、必要時は特養ナースと連携し関係機関に連絡を取りました。水分摂取の重要性をご家族にも伝えながら､利用中にはこまめに水分提供を行いました。

3　認知症の症状に対し、デイの活動中にも悩む利用者の不安を解消する為、寄り添う支援に重点を置き、必要な支援を見定め、個々にあった支援を行いました。

4　新規利用者の御家族は認知症に対して十分な理解がなく不安を抱きやすい為、担当ケアマネと密に連携を取り、信頼関係を構築する事に努めました。

Ⅳ　防災並びに交通安全

1　防災

（1）法人全体の安否コール訓練の実施と、グレイスの防災訓練時に日中想定の避難訓練を毎月行いました

（2）利用者毎のＢＣＰフェイスシートを作成しました。

2　交通安全

交通安全講習に参加し､利用者様の送迎時には特に慎重かつ安全な運転に心かけました。利用者様宅の急な坂で車のスカート部分をこする事故、職員のバイク運転への苦情をいただく事があり、職員への注意喚起を行いました。

Ⅴ　苦情とその対応、並びに虐待と思われる事案に対する対応など

1　苦情は2件発生。ご家族に対し他事業所のことを主観で伝えた事への苦情と職員がバイクを運転中にスマホを操作していたことへの苦情でした。ご家族だけでなく地域の方々の目もある事を再認識する機会となりました。職員に苦情内容を伝え、原因・対策について会議を持りました。その後苦情の申し立ては聞かれていません。

2　浮き気味であった爪が入浴中に剥がれた為、受診する事故がありました。そのほか、書類渡しのミス等あり、個人情報でもあり、ご家族に深くお詫びしました。

3　虐待事案はなかったが、虐待を早期に発見しうる施設として、職員会議を通して常に話し合う場をもつように努めました。

Ⅵ　家族や地域

1　お便りで日頃の活動の様子を伝えるだけでなく、利用者様の支援方法についてご家庭でも取り入れやすい情報を掲載しました。「すずらん介護者の集い」では活動報告のほか、事例を挙げての対応方法等を伝えたり、ご家族の悩みを共有する事ができました。

2　坂部小学校生徒（4年生）との交流を継続。小学校の運動会とうの行事見学、坂部よいとこ祭への出展等ができました。

運営推進会議を年2回開催し、活動の報告を行い、地域の皆様からご意見を頂きました。

Ⅶ　実習生やボランティア

1　常葉大学付属菊川高校生徒の実習(1名)の受け入れを行いました。

2　年度前半までボランティア団体の皆様に外出支援等のお手伝いをいただけたが、団体への若い年齢層の加入がなく、回数が減少している事が課題です。

グレイスと共同でコーラスや手品・踊り等のボランティアにお越し頂いた。

Ⅷ　環境整備（建築、改修、修繕等を含む）

1　屋根の雨漏りについてその都度、点検修繕しているが、劣化によるものの為、今後も適時に修繕が必要となっています。

2　レク材等の保管場所を和室奥へ変更し､ホール全体も広く使えるよう整頓に勤めました。

3　感染症の対応、使用薬品等についてグレイスと同じ対応ができるように統一しました。

Ⅸ　職員研修

職員全員が外部研修に参加することができました。管理者は「効果的な研修活用」について受講しました。法人の新年度研修や全体研修は土曜日開催であることが多く、営業日でもあり、参加は1名のみとなりました。

Ⅹ　その他

1　家族の体調不良で休みが必要となった職員はありましたが、職員が大きく体調を崩すことはなく出勤する事ができました。正職の有休取得は難しく改善に至っていません。

2017(平成29)年度事業報告

訪問介護事業
介護予防訪問介護事業所
介護予防・日常生活支援総合事業
ライフサポートさふらん

Ⅰ　活動方針並びに課題

1　活動方針について

住み慣れた自宅（地域）での生活を支えるために、訪問介護サービスは大変重要であると考えております。今年度（2017 年度）スタートした、“介護予防・日常生活支援総合事業”につきましても、対象者の積極的な受入れをしてまいりました。しかし、総合事業の制度の理解と低料金という問題は事業所といたしましては一年間大変苦労いたしました。登録パート職員が大半であるため、研修等が十分に提供できませんでしたが、全職員で事業計画の内容を共有し、よりよいサービスの提供と自己の成長、ご利用者の立場に立った支援ができたと考えます。社会福祉法人が運営する事業所である事をふまえ、在宅で安心して暮らせるよう、これからも出来る限りの受入れをしてまいります。

2　課題

（1）　要介護者、要支援者、介護予防・日常生活支援総合事業対象者のサービスの調整、訪問介護員の割振りなどには苦慮いたしました。受入れ可能件数につきましては、その都度訪問介護員の状況も確認し、過度にならないよう適切な受入れが出来ました。

（2）　基本的には、ご利用者により訪問介護員を固定することなく、訪問した介護員が統一されたケアが出来るようにいたしました。ご利用者の意向で、職員が限定される場合も複数職員でケアの検証ができるよう職員同士の連携を心がけました。

（3）　介護予防・日常生活支援総合事業につきましては、全員が十分な共通理解出来ていない状況です。引き続き、勉強会等を開催していきます。

（4）　登録パート職員は、自家用車での訪問する事がほとんどであるため、保険の問題や自動車のメンテナンスに関する費用などについて長年に渡り課題となっているが、今年度についても良い解決案がないまま過ぎてしまいました。引き続き、検討してまいります。

Ⅱ　利用者と職員の状況

1 利用者について

保険者別年間延利用者数

	牧之原市	島田市	吉田町	御前崎市	合　計
介護	282	12	86	116	496
予防	60	0	12	6	78
総合	166	12	30	9	217
自費	19	9	4	14	46
合計	527	33	132	145	837

サービス区分別年間延回数

介　護			予　防			総合事業	
身　体	身体生活	生　活	予防Ⅰ	予防Ⅱ	予防Ⅲ	みなし	緩　和
5,763	1,861	862	136	347	7	268	152

２　職員について（2018 年 3 月 31 日現在）

施設長 1 名（1・他事業所兼務）

訪問介護員 15 名

（正職 3 名（内 2 名サービス管理責任者）・パート 2 名・登録パート 10 名）

Ⅲ　サービスとケアの内容

１　ケアマネジャーのケアプランを基本に、サービス提供責任者が作成する介護プランに則ったサービス提供をいたしました。

２　訪問時の様子や要望などは、職員間で必ず情報共有する事と、必要があれば随時ケアマネジャーやご家族に報告いたしました。職員は、サービス提供指針によるサービス提供を心がけました。

Ⅳ　防災並びに交通安全

１　安否コールによる緊急伝達訓練を実施し、全員返信する事ができました。

２　訪問の移動中の交通事故が１件発生しました。休職後復帰されました。

Ⅴ　苦情とその対応、並びに虐待と思われる事案に対する対応など

ケアは職員一人で対応するため、ヒヤリハットなどの発生状況が確認出来ない状況でした。ヒヤリハットは、苦情や事故防止に繋がるため、報告の大切さと意識を啓発するとともに、報告しやすい環境（人間関係）を心がけてきました。虐待に関しては、職員一人ひとりが正しい知識を持ち、自身の言動に責任を持つように啓発しました。

・苦情 0 件　　・事故 7 件　　・ヒヤリハット 3 件

Ⅵ　家族や地域

１　ご家族には、訪問時の様子などを報告し日頃から情報の提供ができました。また、要望等を言いやすい関係づくりに心がけました。

２　ご利用者のご近所や地域の方々が、訪問時以外の様子を報告くださった事例がありました。

Ⅶ　実習生やボランティア

今年度の実績はありませんが、実習生の要請があった場合は訪問先に了解を得た上で積極的に受け入れを行っていきます。

Ⅷ　環境整備

事務所内など、書類等の整理をし仕事の効率化を図りました。

Ⅸ　職員研修

法 人 研 修　延 12人（新人、新年度、中堅職員、リーダー、理念　他）

施設内研修　延 29人（虐待防止、ポジショニング、研修報告）

外 部 研 修　延 16人（喀痰吸引、サービス提供責任者資質向上、難病ヘルパー　他）

Ⅹ　その他

登録ヘルパーを増員し、サービスの要請があった場合迅速に対応出来る体制づくりが出来ませんでした。引き続き、職員確保とより良いサービスの提供を目指します。

2017(平成29)年度事業報告

居宅介護支援事業所

シャローム

Ⅰ　活動方針並びに課題

1　基本方針について

牧ノ原やまばと学園のﾘﾆｭｰｱﾙﾌﾟﾗﾝに基づいて次のような事業を実施しました。

2　課題

（1）新規を積極的に受入れ、取扱件数上限まで対応することを基本としていたため、稼働率は97.5%を維持できたが、特定事業所加算を算定できる体制にない為、経営的には厳しい状況が続いています。

（2）毎年、介護支援専門員の入れ替わりがあり、ご家族に精神的な負担をおかけしていたことが課題でしたが、今年度は担当を継続する事ができ事業所変更を希望されるケースはありませんでした。

Ⅱ　利用者と職員の状況

1　利用者について

（1）計画作成数（延べ）　要介護830件　　要支援186件

（2）新規受託数19件　契約終了件数23件（死亡11件、入所10件、変更0件、療養2件）

（3）平均稼働率　97.5%

2　職員について（3/31現在）

職種別：所長1名（グレイス施設長・すずらん施設長兼務）

介護支援専門員2名（主任介護支援専門員1名・介護支援専門員1名）

Ⅲ　サービスとケアの内容

1　サービスについて

（1）利用者・家族の意向や状況について丁寧なアセスメントを行い、その意向に沿えるようマネジメントを行いました。

（2）民生委員との交流の場への参加やケアマネ個々の声かけでインフォーマルな支援を計画に盛り込むことができました。

（3）困難事例では他事業所や地域包括支援ｾﾝﾀｰ、行政との連携を図って利用者を支援しました。生活支援ｾﾝﾀｰや福祉課と連携をとり障がいのある方の支援を行いました。

（4）利用者・家族に制度の仕組みや料金についてご理解いただけるように説明しました。

（5）医療と介護の連携を実践すべく、病院や老人保健施設と連携したり、医師や薬剤師などにと連携し、プランに位置付けました。

（6）やむおえず申請の代行を行う場合は、ご家族より同意書をいただいたうえで手続きを行い、終了後には保険証等速やかに返却しました。

Ⅳ　防災並びに交通安全

1　防災

（1）入所部門の防災訓練・災害安否確認システムの訓練に参加。

（2）居宅事業所用の災害対策マニュアルを作成。ケアマネ個々で担当する利用者のBCPフェイスシートを作成。

2　交通安全

交通安全講習参加。安全運転に心がけ、交通事故や小さな物損事故もなく過ごせました。

Ⅴ　苦情とその対応、並びに虐待と思われる事案に対する対応など

苦情報告は０件。法人内の苦情解決委員会にて他事業所にいただいた苦情について共有し再発防止について話し合いました。

虐待が疑われる事例１件。包括支援ｾﾝﾀｰ・高齢者福祉課保健師等とコア会議を行いました。居宅の対応の遅れの指摘があり、その後は細かく報告を行い包括と連携して対応しました。

Ⅵ　家族や地域

１　家族との関係

担当件数調整のために数名のケアマネ変更を行っているが、ケアマネの入退職はなく家族との関係は安定した状態で支援を継続する事が出来ました。

２　民生委員との懇親会で業務について説明し、互いの理解と連携について話し合えました。依頼を受け、坂部地区の公民館にて介護保険について話をさせていただきました。

Ⅶ　実習生やボランティア

介護支援専門員実務研修中の法人職員に、実習可能な利用者様を紹介しました。

Ⅷ　環境整備（建築、改修、修繕等を含む）

１　6月に事務所をグレイスの事務所内へ移転。2名体制となったシャロームとグレイス事務室職員で互いに助け合って業務を進めることことができるようになりました。

２　公用車は丁寧に使用し、建物・周辺の環境整備では、玄関前の花の植え付け等をグレイスと協力して行いました。

Ⅸ　職員研修

１　参加研修

法人内研修	新年度研修、　リーダー育成研修：4回、　全体研修 交通安全教室
高齢者内研修	リスクマネジメント、　コンプライアンス、　高齢者虐待防止法 感染症、　スライドトランスファー、　ポジショニング、 認知症、　脱水について、　介護の奥深さ
ケアマネ連絡会	総合事業の注意点、　在宅療養・ケアマネとしての関わり方 介護サービス事業所との交流、　最新の糖尿病の話題 課題整理総括表の作成について
主任ケアマネ連絡会	事例検討会、看取りを考える
外部研修	より良い高齢者ケアを考えるセミナー、　ウエルファン講習会 志太榛原リハビリテーションセミナー、　権利擁護講習会

各ケアマネ毎の研修計画を立てて取り組んだ。研修内容については居宅会議等で互いに報告し、情報共有に努めました。※研修参加実績は個人差が見られました。

Ⅹ　その他

１　主任介護支援専門員が法人の初任者研修講師を担当しました。

2017(平成29)年度　事業報告

牧之原市地域包括支援センターオリーブ

Ⅰ　課題や活動指針(主要事業)

1 地域包括ケアシステムの構築に向けた基盤づくりに市と協働で取り組みました。

2 相談支援の充実と地域包括支援ネットワークの構築・活用にむけて取り組みました。

3 権利擁護に関する啓発と活用を市や高齢者部門と勉強会などで取り組みました。

4 介護予防ケアマネジメントと介護支援専門員に対する支援・指導を実施しました。総合事業が始まり、まだまだ予防マネジメントの件数など検討すべき点が課題となりました。

Ⅱ　利用者と職員の状況

1 利用者(対象者)・・・牧之原市榛原地区の予防給付と総合事業実績件数

	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
給付直営	47	41	36	38	42	37	41	41	43	43	47	48	504
委託	122	133	124	126	120	118	108	106	103	96	96	95	1241
合計	169	174	160	164	162	155	149	147	146	139	143	143	1745
総合直営	29	33	56	55	54	55	62	72	84	81	94	90	765
委託	0	7	7	5	5	8	11	15	18	22	25	20	143
合計	29	40	63	60	59	63	73	87	102	103	119	110	908
実態把握	18	33	23	36	24	40	40	40	26	36	20	33	369

2 職員

所長・主任介護支援専門員	常勤専任　1名	介護支援専門員	非常勤専任　2名
保健師	常勤専任　1名	実態把握 予防ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	非常勤専任　1名
社会福祉士	専任　1名	事務担当	常勤兼任　1名
主任介護支援専門員	専任　1名		

Ⅲ　サービスとケアの内容

1 地域包括ケアシステムに向けた基盤づくり

(1) 個別地域ケア会議を開催し、多職種で地域全体の解決の検討をした。
認知症初期集中支援チームの会議に参加した。実績はなかった。

2 権利擁護に関する啓発と活用

(1) 法人高齢者部門と協力し、虐待の勉強会を企画し高齢者部門全員の参加を目標に実施した。(9割は参加できた)また、市とさがら包括と協働で虐待研修を実施した。また、成年後見制度についてもケアマネや事業所を対象に研修会を実施した。

(2)今年度は4月当初から虐待・処遇困難ケースが表面化し、3職種での対応がかなりの割合を占めた。特養等への入所依頼や成年後見に結び付けるケースもあった。
虐待対応：6件　　成年後見支援：4件(引き継ぎ2件)

3 介護予防・介護予防ケアマネジメント・介護予防プラン

(1) 介護予防給付に関して：総合事業がスタートしたことで、横這いか件数は減っているが、総合事業に関しては右肩上がりで、包括でのプランニングがほとんどの為、プランナーが不足し、3職種がプランナーを実施せざるを得なくなった。

4 包括的･継続的ケアマネジメント体制の構築

(1) 市主導で地域の主任介護支援専門員と協力し、介護支援専門員に対し、課題整理総括表を使った、ケアプラン点検に協力し、個々のケアマネの困りごとなどを聞く機会を設け、ケアマネ支援を実施した。

Ⅳ　防災並びに交通安全

1 防災訓練：牧之原市総合防災訓練は職員緊急連絡網による情報伝達を実施した。
　法人合同防災訓練： 安否コールを使って携帯で一斉に訓練を実施した。
2 交通安全の意識付け：法定速度厳守、雨天の運転注意、交通安全教室に参加した。

Ⅴ　苦情とその対応、並びに虐待と思われる事案に対する対応など

1 苦情受付窓口を設置し適切に対処した。年間の苦情は 3 件。内容を職員で共有した。
2 事故・ヒヤリは 0 件。ヒヤリハットの意識付けで書面に落とす努力が必要。

Ⅵ　家族や地域

1　訪問時“ええあんばい”や他事業のお知らせ、オリーブのリーフレットを配布した。
2　事業所への移行をめざし、家族元気回復事業は､介護者教室等の開催を行った。
　介護者教室はＤＳ真菜へ依頼し、担当職員へ支援を行った。
3　民協や、サテライト事業所と連携し、研修会を実施し連携の体制を作成した。
4　保健、医療、福祉の専門職、民生委員、ボランティア、社協など地域福祉を支える様々な関係者との連携を図り、関係者への支援を行った(31 件)
5　地域のサロンやシニアクラブに出向き、介護予防や権利擁護の啓発を行った(19 件)
6　ぶどうの木の地域へのポイント啓発事業に協力した。(朝生にて実施した)

Ⅶ　実習生やボランティア

1　健康推進の実習生を市と協議の上、個人情報を厳守し実習生を受け入れた。
2　聖隷クリストファーより法人にインターンシップ活用で 3 名の保健師希望者が実習を希望され受け入れを行った。

Ⅷ　環境整備

1 市役所という行政の職場内に事務所があることで、市民にとっては便宜が図れる良い場所である。また、法人職員としては個人の理性ある行動と守秘義務を怠らないように仕事を遂行してきた。関連部署との円滑な連携もできるように努力をしてきた。

Ⅸ　職員研修

1　各専門職種 (社会福祉士･保健師･介護支援専門員) 等のスキルアップ研修に参加した。
　事業に必要な知識と技術の習得のため、県・国の必要な研修に参加した。
　外部研修：24 件　他　法人・包括内の研修と研修報告を実施した。
2　オリーブカンファレンスを利用してケースワーク・必要な研修報告を行い、個々人のスキルアップを図った。
3　包括さがらと月 1 回連絡会を開催し合同事業や各種会議の持ち方など相互で共通な協議事項を検討し企画実施した。また、情報共有やケースワークも行った。
4　在宅高齢者と障害を含んだ家族を支える為に関係機関と連携を図り同行訪問をした。

Ⅹ　その他

1　職員の健康管理は、健康診断・インフルエンザ予防接種・訪問時の自己予防などを実施した。ストレスチェック等メンタル面で課題が残った。
2　平成 28 年度 6 月より 0.5 人工職員配置ができず、返還金が生じた。平成 29 年度においても 4 月より 0.5 人工配置できていないが実態把握実績増により返還金はなしとなった。

2017（平成 29）年度事業報告

介護予防拠点施設
コミュニティーセンターぶどうの木

Ⅰ．活動方針と課題

1.方針

(1) 概ね 2 時間以上の短時間デイサービスを提供し、運動を主とした介護予防を行った。

(2) 簡単な体操やお喋り、情報交換等交流を深め生活機能の低下を防ぎ、要支援・要介護状態への移行を防止しました。

2.課題

ご本人やご家族、関係機関や地域の方々と連携し、各地域に出向き介護予防の知識や簡単な体操、活動レクの支援を行いました。

Ⅱ．ご利用者と職員の状況

１．ご利用者

事業種	短時間デイサービス事業	一般介護予防事業		一般介護予防事業通所以外
	概ね２時間以上通所	通所型フォロー事業（ほっとサロン）	生きがいづくり介護予防（さーくるふらっと）	介護予防ポイント啓発事業
曜日	月・水・木(AM) 火（AM･PM）	金曜日 （AM）	火・木 （PM）	特定なし
開所日数	246 回	44 回	43 回	14 回
延べ人数	1500 名	336 名	209 名	261 名
定員	各 12 名	各 10 名	各 15 名	なし

２．職員

施設長・管理者	１名	支援員（常勤職員）	0 名
支援員（パート兼務）	２名	支援員（パート職員）	3 名

Ⅲ．サービスとケアの内容

１．短時間デイぶどうの木

週１回２時間以上の通所事業を実施しました。介護予防プラン及び個別サービス計画に基づいて、定期的な社会参加や介護予防体操で自立を目指す人々に運動機能・口腔機能・認知機能向上のプログラムを提供し、介護予防の維持改善に努めました。

２．通所型フォロー事業『ほっとサロン』

定期的な外出や他者との交流が必要と認められる人々に対して支援しました。参加者の交流が深まり自主的活動、運動、創作活動等の意欲が引き出され生活機能全般において維持改善がみられました。

３．介護予防普及啓発事業

地域に出向き、地域の高齢者が自ら活動に参加できることを主に、介護予防に関する知識や方法を学んでいただき継続して取り組める様働きかけました。特にタオル体操や新聞紙を丸めた棒体操、コグニサイズ、ストレッチ、ゲームなどを紹介しました。

Ⅳ．防災並びに交通安全

１．災害

災害時の職員体制を確立し、有事に備えての訓練等を実施しました。
（1）職員は、聖ルカホームでの訓練に合わせて水消火器訓練を実施
（2）利用者と職員が施設内にて地震、火災、避難訓練を実施
2．交通安全
（1）職員は交通安全講習に参加し、利用者送迎中の安全に努めました。
（2）利用者は、毎月１回開催される「婦人交通指導員による交通安全講話」から情報提供を受け、交通安全への意識を高めました。
（3）株式会社　日産フィナンシャルサービスの「エコ&セーフティードライブコンテスト」に参加し、11 月から１月の３か月間無事故を達成し優秀賞の表彰状を受け交通安全の意識を高めた。

Ⅴ．苦情とその対応、並びに、虐待と思われる事案に対する対応など

朝のミーティング時にご利用者の出欠の有無と引継ぎ事項や対応の確認をしました。0 件

Ⅵ．家族や地域

1．家族に対して
必要に応じて相談や情報交換をし、丁寧に説明をしました。
2．地域に対して
（1）地域に出向き、12 地区で 14 回介護予防啓発事業として介護予防教室を開催し、講演会やチラシを配布し介護予防の大切さを、事業所のＰＲをしました。
（2）施設を開放し中地区の居場所として「中お茶飲み会」が発足しました。

Ⅶ．実習生やボランティア

音楽療法士西川浩美様：音楽活動の講師延べ 42 回
その他 6 回延べ 20 名

グレース・ファミリー	バイオリン、マンドリン、ハーモニカの演奏と歌	４名
個人	二胡の演奏	１名
ヤクルト	お腹の健康についてのお話	１名
道鼓会	銭太鼓、歌	５名
さくら会	干支の置物づくり	２名
やまばとレタスクラブ	なぞなぞクイズ、歌	７名

Ⅷ．環境整備

事務所のエアコンが故障し使用できなくなった為、市がホームエアコンを設置しました。

Ⅸ．職員研修

内部研修：「新年度研修」「交通安全」「アンガーマネジメント」「高齢者虐待対応研修」延べ８名
外部研修：「運動指導者研修」「ケアする人のケア」「社会福祉法人決算実務研修」延べ６名

Ⅹ・その他

介護予防の一環として「さーくるふらっと」が発足し、絵手紙、アート（手工芸など）の趣味的な教室が人気である。その理由としては、高齢になり運転ができない為送迎付きであることが判明している。

2017(平成 29)年度事業報告

介護職員初任者研修

Ⅰ　活動方針並びに課題

1　活動方針

障がい者および高齢者が、地域で自立した生活を送るために提供されるべきサービス、すなわち、「当事者を主体としたサービス提供の理念」と、「障がい者・高齢者に対応できる介護技術」の習得を目的として事業展開し、この事業を通して地域の介護・福祉人材の確保と介護・福祉サービスの向上を図る。

2　課題

（1）事業開始 2 年目になる。初年度は、受講生は 12 名しか集められなかった。今年度は募集期間を長くし、各事業所にも、受講生募集のポスター貼りを積極的に協力していただくなど、出来得る限りの方策を尽くして、定員数に近い 18 人の受講生を確保できた。

（2）初年度は、2 名が受講後、当法人に就職した。今年度も外部の方が受講後に、1 名就職、1 名ボランティアに来ている。引き続き当法人に就職されるようなケアをする。

（3）初年度は、手続き上のミスによって、教育訓練給付金の支給対象講座の指定を得られなかった。当該指定の申告時期が前年の 10 月頃という事が分かった。来年度の指定も間に合わないので、再来年度は、しっかり指定が得られるよう手続きに万全を期す。

（4）初年度は、補講の対応等が大変だった。今年度は、補講代として、1 時間 2000 円を徴収した。

（5）今年度は 2 名の受講者が体調不良等で修了することができなかった。全員の修了を目標としていきたい。

（6）今年度途中で担当職員が交代することになった。引継ぎは行ったが不安が残る。

（7）講師の確保が最大の課題と感じる。講師の本業に支障をきたさないよう配慮する。

Ⅱ　受講者と職員の状況

1　受講生は 18 名でした（当法人職員 4 名。当法人利用者 1 名。外部の方 13 名）。

2　事務全般と通信課題対応は、本部事務職員（9 月末退職の為 10 月からは委託契約）が担当した。

講師は、全員法人内職員。なお受講者が 12 名を超えたので、演習の科目には、サブ講師をつけた。

Ⅲ　サービスの内容

【日程】毎週土曜日。8 月 12 日（土）から 11 月 25 日（土）まで、全 15 回実施した。

（平均の授業時間）午前 9 時から午後 4 時半。

【会場】法人本部会議室・聖ルカホームの会議室と礼拝室を使用した。

【テキスト】長寿社会開発センターのテキストを使用した。

【修了試験】対策の模擬テスト実施したが、1 名が修了試験を落第し、1 名が体調不良のため試験を受ける事ができなかった。追試の必要があったが両名共に受けることがなかった。

Ⅹ　その他

1　スクーリングを通じて、受講生が仲良くなり、相互が助け合う良い研修になった。

2　定員近く集まったこともあり僅かではあるが利益が出た。

付属明細書

該当なし